

# 令和5年度事業報告案

社会福祉法人初穂会  
特別養護老人ホーム  
稲毛こひつじ園

-目次-

1	令和5年度 社会福祉法人 初穂会 事業報告概要	- 1
2	令和5年度 事業実績報告	-3
3	令和5年度 各部門実績報告	
3-1	介護部門	-5
3-2	医務部門	-6
3-3	生活相談員部門	-9
3-4	介護支援専門員部門	-10
3-5	栄養部門	-11
3-6	短期入所生活介護部門	-13
3-7	介護予防通所介護・通所介護部門	-17
3-8	居宅介護支援部門	-21
3-9	ボランティア部門	-23
3-10	機能訓練部門	-23
3-11	事務部門	-24
3-12	教育研修部門	-26
4	各委員会実績報告	
4-1	安全対策委員会	-27
4-2	衛生委員会	-30
4-3	褥瘡対策・排泄支援委員会	-31
4-4	防災委員会	-33
4-5	食中毒蔓延防止・感染対策委員会	-35
4-6	広報行事委員会	-38
4-7	拘束廃止・虐待防止委員会	-40
4-8	入浴委員会	-42
5	地域福祉部門	-43
6	ほっとスペース 稲毛ペコリーノ	-44

# 1 令和5年度社会福祉法人初穂会事業報告概要

令和5年度は、4月より滋賀県高島市指定管理朽木特別養護老人ホームやまゆりの里の運営開始、本部として手助けをし、問題解決を行った。千葉市増床公募に選定された。2月に千葉市より実地指導があり指摘事項はなかった。新型コロナウイルスが5月より5類と移行されましたが初穂会では8月から感染クラスター発生し入居者15名、職員8名感染し9月末まで2か月近く感染対策続いたが職員の頑張りもあり通常運営に戻すことが出来た。高齢者施設では新型コロナウイルスの猛威が変わっていないため感染対策は現在まで継続しております。このため、お客様との面談や行事も感染対応によって制限がありましたが、密をさけるためにおやつレク、花火大会、七夕、節分、ユニット行事、敬老会等の個別小規模レクに変更し利用者処遇向上に努めた。

昨今人材難においては、県立高等学校の初任者研修講師に入ることにより学校との連携が取れ高校新卒採用が1名出来た。また、その他専門学校、大学への訪問増やすことにより信頼構築が出来てきたので今後も継続していく。ハローワーク掲載等の求人は例年同様の効果でした。

## 社会福祉法人初穂会 理念

“生きる力の輝きを称え共に歩んでいきます”

高齢者や障害者を含む地域の全ての人々が互いに助け合い大切さにされ、自分らしく生活できる“時間と空間作り”を通して笑顔と思いやりに満ちた社会の実現を目指します。

## 基本方針

- 1 利用者一人ひとりにあった暮らしの支援
- 2 利用者の思いの尊重
- 3 地域と共に築く施設
- 4 利用者に共感出来る職員
- 5 利用者の信頼に応える人材育成

## 令和5年重点目標

- ① 新型コロナウイルス感染対応の継続、自然災害リスク対策を進める  
⇒施設全体で感染対策を行っていたが、8月から9月にかけて特養内コロナウィルスクラスター発生（利用者職員）となり、引き続き感染対策の重要性を感じ、実行してきた
- ② 人材確保、特定技能、技能実習生受け入れにより職員窓口拡大に努める  
⇒県立高等学校との福祉コース臨時講師を行うところにより繋がりがあり新卒1名を採用出来た。今後、専門学校、大学とパイプを作っていく新卒採用繋げていく。

③ 一人一人尊厳を保ち個々の状況に応じたケアの提供

⇒利用者へのケアの質の向上を目指し、コロナがありオンラインでの研修や個別指導での生活やケアに関する研修を行った。外出や面会も制限されて入居者の楽しみが減少しているため感染対策をしながらユニット行事を行い、利用者尊厳の維持に楽しんでいただけた。令和5年度は介護福祉士2名合格することが出来た。

④ 地域、医療との連携 地域に根付いた施設運営

⇒医療機関を周り、柏戸病院交渉決裂、柴田医院は継続、茂木先生は交渉中、協力医療機関を増やし、緊急時、利用者の受け入れを増やすしていき、医療との連携をはかってきた。地域活動として自治会活動や千葉北警察署と防犯活動を行ってきた。

生活困窮者への支援、子ども食堂への支援、地域連携を深めていくため千葉市子ども食堂ネットワークとの連携を前年度同様に行ってきた

⑤ 法人運営の自律性及び継続確保のため、新規事業開設調査検討を行う

⇒千葉市の公募にて12月に増床計画が選定された。

前々年度、滋賀県高島市やまゆり里選定され、人員確保については配置基準満たされて運営開始が出来た

## 2 令和5年度 事業実績報告

<稼働率> 特養 ( )内は2022年度

	実績	稼働率	累計 稼働率
4月	2447 (2430)	90.6 (90.0)	90.6 (90.0)
5月	2623 (2698)	94.0 (96.7)	92.3 (93.4)
6月	2529 (2601)	93.7 (93.3)	92.8 (94.4)
7月	2713 (2673)	97.2 (95.8)	93.9 (94.7)
8月	2639 (2677)	94.6 (96.0)	94.1 (95.0)
9月	2481 (2608)	91.9 (96.6)	93.7 (95.2)
10月	2563 (2608)	91.9 (93.5)	93.4 (95.0)
11月	2517 (2556)	93.2 (94.7)	93.4 (94.9)
12月	2585 (2556)	92.7 (91.6)	93.3 (94.6)
1月	2414 (2503)	86.5 (89.7)	92.6 (94.1)
2月	2348 (2143)	90.0 (85.0)	92.4 (93.3)
3月	2510 (2450)	90.0 (87.8)	92.2 (92.8)
計	30,369 (30,503)	92.2	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
新規入所者数	4名	4名	2名	2名	1名	3名
退所者数	3名	3名	0名	1名	3名	4名

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規入所者数	3名	3名	1名	4名	3名	3名
退所者数	2名	0名	3名	7名	4名	3名

※令和5年4月～令和6年3月

(新規入所数) 33名 (退所者数) 33名

<稼働率> 短期入所 ( )内は令和 4年度

	実績	稼働率	累計 稼働率
4月	569 (541)	105.4 (100.2)	104.4 (100.4)
5月	484 (571)	86.7 (102.3)	95.6 (101.4)
6月	431 (512)	79.8 (94.8)	87.7 (98.1)
7月	477 (546)	85.5 (97.8)	86.6 (98.0)
8月	542 (569)	97.1 (102.0)	91.9 (100.0)
9月	527 (549)	97.6 (101.7)	94.8 (100.9)
10月	516 (554)	92.4 (99.3)	93.6 (100.1)
11月	529 (534)	98.0 (98.9)	95.8 (99.5)
12月	554 (529)	99.3 (94.8)	97.6 (97.2)
1月	550 (515)	98.6 (92.3)	98.1 (94.8)
2月	479 (512)	91.8 (101.6)	95.0 (98.2)
3月	547 (605)	98.0 (108.4)	96.5 (103.3)
計	6,205 (6,537)	94.2 (99.5)	94.8 (99.3)

<平均介護度> 3.4 <平均年齢> 86.8歳<男女比> 3 : 7

<居宅介護支援稼働率>

	要介護	要支援	新規	終了	稼働率
4月	61	7	5	3	87.1
5月	73	8	5	2	104.5
6月	66	10	5	3	95.9
7月	68	9	3	2	61.3
8月	75	11	6	1	77.5
9月	72	13	4	0	70.72
10月	75	13	4	2	73.42
11月	73	12	2	3	71.17
12月	75	12	3	2	72.97
1月	77	11	2	3	74.32
2月	81	11	7	1	77.92
3月	89	12	5	1	85.58
計	885	129	28	25	79.36

## 3 令和5年度 各部門実績報告

### 3-1 介護部門

#### 【 目 標 】

1. 利用者様に対する接遇マナーの向上
2. 多職種連携を強化し、利用者様の充実した日常生活の構築
3. 介護、医療知識を習得でき、希望、熱意を持った人材の育成
4. 当施設を地域づくりの拠点へ

#### 【具体的方策】

- 1) 新しい生活様式の中でも利用者様にとって心地よい環境を作り出し、職員個人の成長だけでなく組織として利用者様やご家族から強い信頼を寄せられる施設を目指す
  - ①心から利用者様の立場になって適切な配慮をおこなえる心構えを持つ
  - ②利用者様が心地よく身を任せられるよう、清潔感のある身だしなみ
  - ③目を合わせてしっかりと挨拶をおこなえる
  - ④利用者様との距離感を大切に言葉使いに気を付ける
- 2)施設は利用者様の生活の場であることを念頭に、集団生活への調和と安全性と感染症に配慮しながら、生活に楽しみを見出せるよう個別の対応
  - ① カンファレンス開催の機会を持ち、個別の生活リズムを確認・把握し個別ケアに反映する。重大事故発生時は速やかに多職種を招集しカンファレンスを開催し再発防止に努める。
  - ② 利用者様、ご家族の意向を随時伺い、何を必要とされているかを検討する。  
感染症に留意し、対策を講じながら、利用者様とご家族の面会の機会を設ける。
  - ③ ユニット会議を2か月に1度以上開催し情報共有と介護の統一を目指す。
  - ④ 安全で清潔を保てる環境整備に努める。
- 3)サービスの質の向上
  - ① 施設内外、オンラインの研修を通して、人材育成や職員の資質向上を図る。
  - ② 職員の精神的なケアを大事にし、相談がしやすい環境を整える。
  - ③ 認知症への対応や看取りケアの情報収集をおこない、確立したケアをおこなう。
  - ④ 稲毛ペコリーノとの連携を図り、様々な介護・医療知識を得る機会を持つ。
  - ⑤ 職員への感染対応教育の徹底。
- 4) 行事等を通して地域との連携を図り、当園が中心となり地域を元気にできる試みを企画する
  - ①新しい生活様式を実践しながら地域全体との関わりを強化し、幅広い行事の企画

等、地域の活性化に貢献する。

②職場体験や実習生の受け入れは可能な範囲で行い、高校などのオンライン授業は積極的に展開し、当園の持つ社会資源を地域に還元する。

## 評価

1. 利用者様に対する接遇マナーの向上  
各階での対面研修と、書面での学習を行えた。  
対面研修では、動画撮影を行い、参加出来なかった職員もパソコンで後日、確認出来るようにした。  
次年度も継続していきたい。
2. 多職種連携を強化し、利用者様の充実した日常生活の構築  
コロナウイルス対策にて面会の禁止や外部業者、訪問歯科、訪問理容等の制限もあったが、一人一人の個性に合わせた日常生活を営めるよう、各職種が協働し支援してきた。  
パーティション越しの対面面会、ベランダ面会の実施が出来た。  
ユニット毎のおやつレクなども多く行えた。  
外出レクなども増やしていきたい。
3. 介護、医療知識を習得でき、希望、熱意を持った人材の育成  
前年度よりは、介護職員の外部研修への参加を増やすことができた。  
外国人職員も資格を取得する事が出来た。  
来年度も、外部研修への参加率を増やしていきたい。  
感染症対策に対する知識も各職員がさらに深められるよう再教育をしていく。
4. 当施設を地域づくりの拠点へ  
コロナウイルス感染対策の為、季節行事の開催や地域住民の参加を呼び掛けたものの納涼祭、文化祭は開催出来なかったが、フードバンク活動に力を入れた。

## 3 - 2 医務部門

### 【目標】

- I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める
- II. 介護、医療連携の充実を図る



### III. 職員の健康増進令和5年度医務部門事業報告

### IV. 地域に根ざした稲毛こひつじ園の構築

### V. 新型コロナウイルス感染防止の徹底

## 【施策・評価】

#### I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める。

1. 午前・午後と各ユニットを巡視し、介護職員から情報伝達を受け、入居者様の異常の早期発見に努めた。また、入居者様へ積極的に声をかけ、状態の観察に努めた。
2. 介護職員・相談員・栄養士・機能訓練士との連携を図り、入居者様が日々穏やかに過ごせるよう情報伝達・情報共有に努めた。
3. 回診時、嘱託医へ情報を伝達。また、内服薬や状態の相談を実施し入居者様の健康管理に努めた。
4. 内服薬の管理では、医務職員間でのダブルチェックを徹底。配薬忘れ・誤薬事故の防止に努めた。

#### II. 介護、医療連携の充実を図る

1. 介護職員との連携として、口頭での情報伝達のほか、連絡ファイルを活用し情報共有に努めた。
2. 医療連携として、入居者様の受診先医療機関へ、受診依頼書や診療情報提供書・温度板を提出。  
情報伝達に努めた。また、早めの受診対応を心がけ重症化防止に努めた。

#### III. 職員の健康増進

1. 新型コロナウイルス流行により職員の健康管理の徹底し感染防止に努めた  
結果陽性者発生せず、今後も職員とのコミュニケーションの充実・定期的の抗原検査施行  
継続し、体調不良者の悪化を未然に防ぐように努めた。

#### IV 地域に根ざしたこひつじ園の構築

- 1 地域との関わりは新型コロナウイルスの流行でイベント、地域カフェ等が中止になっている、本年度も前年度の引き続き中止している
- 2、このコロナ渦で家族との連絡は相談員を通じて行っているが、高齢化していく  
家族との連携の難しさを感じることも多々あった、これからも更なる関係向上に努  
めていく

## V コロナウイルス感染防止の徹底

新型コロナウイルスの徹ス流行で感染防底を行った結果入居者様に陽性者発生することなく過ごすことができました今後もより一層感染防止の強化徹底に努めていく次第です

医務 令和5年度		年間集計表									
	内科	皮膚科	施設内 合計	受診 合計	外部受診	受診 付き添い	オンコール	救急搬送	入院	カンファレンス	看取り
4月	77		77	58	15	3	4	1	4	8	
5月	48		48	66	8	4	2	3	4	9	
6月	87		87	51	6	1	3	6	4	8	
7月	98		98	60	14	0	0	4	5	9	
8月	52		52	58	16	8	4	4	5	10	
9月	92		92	55	5	1	0	8	4	9	
10月	71		71	56	6	3	3	6	4	8	
11月	45		45	53	7	1	6	5	5	9	
12月	46		46	46	8	8	2	4	5	9	
1月	51		51	45	13	9	3	5	2	7	
2月	92		92	44	8	4	4	6	3	8	
3月	91		91	35	6	6	2	3	3	7	
合計	850		850	627	114	49	33	55	48	59	

死亡退去者							
	死亡日	氏名	年齢	死因	死亡確認場所	令和4年度看取り累計	看取り総累計
1	令和5年4月16日	M	90	肺炎	千葉医療センター		
2	令和5年5月15日	T	95	心不全	稲毛こひつじ園	看取り	3日
3	令和5年5月17日	A	93	肺炎	稲毛こひつじ園	看取り	8日
4	令和5年5月26日	S	87	肺炎	千葉大学病院		
5	令和5年7月26日	M	86	肺炎	稲毛こひつじ園	看取り	3日
6	令和5年8月8日	T	97	心筋梗塞	増田病院		
7	令和5年8月10日	Y	89	老衰	稲毛こひつじ園	看取り	2日
8	令和5年8月17日	S	92	老衰	稲毛こひつじ園	看取り	9日
9	令和5年9月6日	U	103	肺炎	谷津保健病院	看取り	
10	令和5年9月11日	H	87	老衰	稲毛こひつじ園	看取り	141日
11	令和5年10月2日	M	86	肺がん	増田病院		
12	令和5年12月14日	N	94	老衰	稲毛こひつじ園	看取り	
13	令和6年1月1日	M	97	肺がん	稲毛こひつじ園	看取り	
14	令和6年1月1日	N	93	老衰	稲毛こひつじ園	看取り	
15	令和6年1月5日	S	82	誤嚥性肺炎	稲毛病院		
16	令和6年1月11日	Y	94	敗血症	斎藤労災病院		
17	令和6年1月18日	N	82	誤嚥性肺炎	四街道徳洲会病院		
18	令和6年2月8日	N	90	老衰	稲毛こひつじ園	看取り	
19	令和6年2月21日	I	85	脳フローゼ	稲毛病院		
20	令和6年2月26日	T	101	老衰	稲毛こひつじ園	看取り	
21	令和6年3月12日	K	101	老衰	稲毛こひつじ園	看取り	

長期入院での退所者（施設復帰の不可のため退所）その他

	退所日	氏名	年齢	病名	状況
1	令和5年4月19日	S	74	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
2	令和5年4月20日	M	95	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
3	令和5年9月2日	K	96	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
4	令和5年9月17日	M	81	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
5	令和5年12月5日	H	91	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
6	令和5年12月19日	M	94	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
7	令和5年12月29日	A	84	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
8	令和6年1月23日	S	78	経口摂取困難	療養型へ移行
9	令和6年2月11日	T	79	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
10	令和6年3月28日	U	92	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。

入院先病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
龍毛病院	5				1	2	1	1	1	5	3	1	16
高洲訪問クリニック							1	1					2
四街道徳洲会病院									1	1			2
みつわ台総合病院	2	1	1			1	1		1		2		9
千葉大学病院							1	1					2
千葉医療センター	2				1	1						1	5
海浜病院								1	1				2
千葉中央メディカルセンター		1	1					1	2	1	1		7
習志野第1病院				1									1
船橋医療センター				1									1
千葉メディカルセンター		1						1	1	1	1		5
斉藤労災病院								1	1	1			3
青葉病院	1								1				2
千葉脳神経外科			1										1
増田病院			1		1	1	1			1		1	6
谷津保険病院			1	1	1	1							4
千葉県救急医療センター			1										1
津田沼中央病院					1	1							2

### 3-3 生活相談員部門

#### 【 目 標 】

- I.地域との連携を深め、地域に根差した施設となれるよう努める
- II.常に稼働率100%を目標とし、安定した稼働率を達成する

#### 【 施策、評価 】

##### I.目標稼働率の達成に向けた取り組み

- ・令和5年度の平均稼働率は92.2%となり、目標稼働率の達成は果たせなかった。  
要因としては入院期間の長期化や療養型病床への転院が考えられる。
- ・昨年同様、今年度も看取りでの退所者が多かった。
- ・特養空床発生時、ショートステイの有効活用を行い入所に繋げるなどの連携を取る事が出来た。
- ・ショートステイと情報を共有し身体の状態をみて入所に移行する事が出来た。
- ・必要時は入居者の居室変更をし、バランスの良いユニット編成をおこなった。

##### II.地域との協力体制を構築し、地域のニーズをくみ取り施設運営に反映していく

- ① フードバンクなどを通して地域施設やひとり親家庭の支援する企画を実施した。
- ② 必要に応じた各種福祉サービス、社会資源の把握・紹介を行った。

- ③ 稲毛ペコリーノとの連携を強め、法人事業の情報発信を行った。

## 3-4 介護支援専門員部門

### 1. 情報収集による生活課題の明確化

コロナ禍の中、ご家族や医療機関、他施設とのカンファレンス開催や十分な情報収集は困難な状況が続いているが、オンライン等を利用し支援方法についての情報収集は問題なくおこなえた。

しかしながら、施設内の感染対応による他部署との接触や施設内移動を控える状態にある場面ではご利用者の生活課題を思うように見出すことができないこともあった。面会については新型コロナウイルスの感染状況をみながら、感染対策を講じながらも面会方法を随時検討し、徐々に緩和することでご利用者とご家族との良好なコミュニケーションを図ることができた。

### 2. 支援内容、生活の質向上に向けた取り組み

より詳細な情報をご家族へ提示できるよう日頃からの介護ソフトへの入力、相談記録への記載内容の充実化を図り日々の状態を把握することができた。

また、ご家族からの記録提供のご要望があった場合は速やかに情報提供を行い受診時にはご利用者の詳細な記録を医療機関へ持参することで、スムーズな受診がおこなっており、ご家族や担当医からもご理解を得て頂くことができた。

日々の業務の中で各部署とのコミュニケーションを密に図り、ご利用者の抱えている課題や支援方法を確認し、解決に至るまでの時間を短縮することができた。

認知症の面では、各職員が認知症に対する理解を持ちながら支援できるよう施設内研修や外部研修を受講し様々な認知症状に対して対応できるようになっている。

### 3. ご利用者の健康管理、医療機関との連携

囑託医の診察後もご利用者の健康状態を随時ご家族へ報告し、ご家族からの要望などを囑託医や外部医療機関へ情報提供し、医療機関とのスムーズな連携に努めた。

看取りに関しては、事前にご家族の意向を書面、口頭で幾度も確認した上で囑託医の看取り診断を受け、看取り指針・ケアプランの説明をご家族に行い定期的なカンファレンスも実施。看取りカンファレンスについては多忙な業務の中でも各部署へ参加要請し、ご利用者やご家族の思いを看取り介護の支援内容に反映することができた。

#### ケアプランの立案数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通常	11	16	14	16	22	10	13	15	13	15	20	14	179
看取り	0	3	0	1	2	3	2	0	1	2	2	2	18

#### 入所者の平均年齢状況 (令和6年3月時点)

男性の平均年齢	女性の平均年齢	入所者全体の平均年齢
86.6	88.2	87.4

## 3-5 栄養部門

### 【目標】

- 1、日本の行事や季節を感じる食事の提供
- 2、ご利用者様・ご入居者様、おひとりおひとりの身体状況・摂取状況に合わせた食事内容・形態・量の提案・提供
- 3、ご入居者様が最期の時まで味わうことができる経口維持支援体制の強化
- 4、非常時に対応できる体制整備

### 【具体的対策】

- 1、日本の行事や季節を感じる食事の提供
  - 1) 「給食運営会議」の開催（月1回）  
⇒委託業者を交えて意見や情報交換を行い食事提供の向上に繋げた。
  - 2) 選択する喜びを感じていただける機会の設定  
⇒毎日主菜セレクト、月1回パンセレクトをデイサービス・ショートご利用者様に行った。  
主食セレクトは月3回ほどデイサービスご利用者様に実施した。
  - 3) ご入居者様を対象とした嗜好調査の実施  
⇒食事提供中の入居者様全員を対象として2月に実施した。  
感染リスクを考慮して、ユニット職員に聞き取りの協力を得た  
調査結果は、給食運営会議内で報告を行い、資料を配付した。
  - 4) イベント食・グレードアップ食の実施（月1回）

⇒月2回、旬の食材・季節の献立を取り入れ提供した。

月1回の委託業者のスイーツコレクションも好評を得た。

2、ご利用者様・ご入居者様、おひとりおひとりの身体状況・摂取状況に合わせた食事内容・食事形態・食事量の提供

1) 当園の栄養基準・食種に基づいて食事を提供

⇒既往歴・内服薬の情報や採血結果・受診後の Dr 指示により食事内容・形態を多職種にて検討して提供した。

2) ミールラウンドの実施

⇒ご利用者の食事摂取状況を観察して、食事内容・量等の再検討の材料とした。

3) 月1回以上の栄養評価

⇒体重測定日に合わせて平均食事摂取量を前月と比較して低栄養リスクの高い方の改善策等各職種と相談した。

4) 褥瘡対策委員会に参加する

⇒「高リスク一覧」「状況一覧」を提示して委員会に参加。他職種とともに褥瘡対策を検討した。

5) 外部の研修会や講習会の参加

⇒千葉市保健所主催の「高齢者給食施設研修会」(R5.9.13)に参加して、講義の傾聴とグループワークで他施設の管理栄養士と情報交換ができた。

3、ご入居者様が最期の時まで自らの口で味わう楽しみを継続できる経口維持支援体制の強化

1) 支援が必要なご入居者様の選定

⇒今年度は新規5名を選定した。

2) 医師へ依頼

⇒問題なく医師へ選定者の診察・テストを依頼し、判断・指示を受けられた。

3) 会議の開催

⇒感染対応、業務により会議を欠席する場合は、書面にて各職種の意見を取り入れた。

4、即座に感染対応できる体制を整える

1) 感染委員会・防災委員会に参加し、最新のマニュアルを確認する

2) 給食委託業者と情報共有し、迅速に実践できるように準備をする

⇒感染委員会等の必要な情報や議事録等を提供した。

3) 物品不足とならないよう、定期的に在庫管理を行う

⇒在庫表を作成して棚卸を定期的実施している。

## 3 - 5 短期入所生活部門

### 【 目 標 】

- I. 「自らが利用したい。家族を利用させたい。」と思えるような、利用者が安心して住み慣れた地域で生活できるよう個々のニーズにあった介護サービスを提供する。
- II. 心身ともにより生活しやすい環境を整え、利用者が安心して生活が送れるよう各部門や外部機関と連携し支援する。
- III. 常に利用ニーズを調査し、必要ニーズに対応した支援を行う。
- IV. 感染症拡大防対策を行う。

### 【 施策・評価 】

- I. 令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の第5類感染症へ移行となり世間的には感染症拡大対策が緩和されているが実際の所、医療・福祉施設においては色々な所からクラスターが発生しているとの話があり、実際当施設もクラスターまで行かなくても施設内で感染が確認されたこともあり、前年度から引き続きで継続して面会の制限や病院以外の外出の制限を行い、受け入れは状況に応じて2週間から1カ月以上の利用で対応を行った。それに伴い、外出企画のレク等は前年度同様実施を控え、施設内で実施出来るレクを工夫しながら実施するようにしたが、その中でも感染対応が始まってしまい計画していたレクが出来ない事も多々あった。今後は感染拡大防止に努めながらも世間の状況を鑑みて少しずつ受け入れ方法を元に戻し、外出企画なども実施出来るようにしていきたい。

他事業所やご家族様との連携や信頼関係に関しては、ご利用中出来るだけ柔軟な対応を心掛け情報を密に共有し信頼関係を構築するようにしている為、同事業所内でのリピーターも増えてきている。今後も引き続き『利用したい』と選ばれる施設になれるよう活動していく。

- II. 施設内各部署との連携を強化し出来る限り柔軟な受け入れを心掛けて対応するようにはしていたが、当施設は現在も感染拡大防止に備え他施設に比べるとまだ面会制限等も継続して行っていることもあり、実際に利用を希望され契約直前まで話は進むが他

施設と天秤にかけて話を進めており、面会が出来る施設で利用できることになると利用希望を断られるケースが多々あり利用に繋がらない事が多かった。来年度は今年度の事を念頭に入れ、世間の情勢を踏まえ、感染対応の在り方を再検討して対応していかなければならない。

- III. 施設内では何度かご利用者様や職員にコロナに罹患することがあった為、大事をとり5類へ移行する前と変わらない対応にて2週間又は1ヵ月以上での利用受け入れと面会制限を実施した。利用に繋がるケースは面会制限の緩和されている他施設を希望するも満床で利用することが出来ず仕方なく面会制限のある所でもと当施設の利用を開始することが多く、始めから面会制限があるなら他施設を探すという方が圧倒的に多く稼働率の減少の理由の一つにもなってしまった。

来年度に関しては、感染状況を踏まえながらもコロナ前の状況になるべく戻して対応できるよう検討していきたい。また空室状況や情報の更新に関しては頻繁に行うようにし発信していきたい。

最近課題となっている困難ケースに関しては、独居の方で保証人様となれる方がいない方が年々増えている傾向にある。その場合は、社会資源を利用しながらも対応できるケースに関しては出来るだけ柔軟に対応していきたい。但し、ご家族様がおり保証人となられている場合でも中々、ご利用者様の状況や介護保険の理解が難しい方が増えてきていたり、保証人様も高齢でその方も含めて対応しなければならないケースもかなり増加している。今後はそのような困難ケースが更に増加すると思われる為、柔軟に対応できるように検討していかなければならない。

- IV. ショートステイ内においてはご利用者様に疥癬や新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症に罹患するケースは見られずに済んだが、職員に関しては新型コロナウイルスやインフルエンザに罹患し出勤停止になった者もおり罹患判明後、早い段階で感染対応を行う等にご利用者様に感染することはなかったが、やはり職員が持ち込む可能性が高い為、特に新型コロナウイルスに関しては5類感染症に移行したとしても、引き続き感染防止対策に努め、定期的なユニット内の消毒や清掃を実施するなど環境整備を行う。また昨今では溶連菌やRSウイルス等に罹患する人数も増えてきていることもある為、色々な感染症に対して注意していかなければならない。どんな感染症にせよ感染対応に直ぐに順応できるよう日頃からシュミレーションを行うようにしていく。

今年度は全てにおいて令和5年5月8日～新型コロナウイルス5類感染症へ移行したことで世間的には感染対応は軽減され、コロナ前の状況にかなり戻ってきていることの影響が大きく出てしまった。感染症はなくなっていない為、病院や他施設でのクラスター発生も出ている為、前年度より引き続きで感染対応を実施し、他施設に比べる



と制限が厳しい状態ではあったが、実際に他事業所やご家族様・実際に利用希望で検討されていた方より『厳しすぎる』や『まだそんなことをしているんですか?』と言われてしまい、他施設を選ばれてしまう等、稼働率への影響も出てきている事実もある。来年度はその事を踏まえ受け入れや面会方法の緩和等、検討し対応していく。

<送迎エリア>

稲毛区 中央区 若葉区 花見川区 美浜区 緑区 の千葉市全域

<送迎実施地域>

区	町
稲毛区	園生町 天台 穴川 柏台 小仲台 轟町 あやめ台 作草部 稲毛町
若葉区	若松町 みつわ台 桜木町 東寺山町
中央区	千葉寺町 栄町
花見川区	千種町
美浜区	真砂 幸町
緑区	
その他	

<要介護度別利用状況>

( )内は令和 4年度

	男	女	計
要支援1			
要支援2			
要介護度1	1 (1)	3 (1)	4 (2)
要介護度2	1 (0)	2 (2)	3 (2)
要介護度3	4 (7)	15 (13)	19 (20)
要介護度4	3 (1)	12 (9)	15 (10)
要介護度5	1 (0)	0 (0)	1 (0)
計	10 (9)	32 (25)	42 (34)

<新規契約数>

( )内は令和 4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男	1 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	2 (0)	1 (0)
女	0 (2)	0 (2)	2 (1)	2 (2)	2 (1)	2 (0)
計	1 (2)	1 (2)	2 (2)	2 (3)	4 (1)	3 (0)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	0 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	1 (0)
女	3 (0)	2 (2)	1 (0)	0 (2)	3 (1)	3 (0)
計	3 (1)	3 (3)	1 (0)	0 (2)	3 (3)	4 (0)

<行事>

- 4月 昼食作り (うどん)
- 5月 おやつレク (フルーツ寒天)
- 6月 昼食作り (手作りバーガーバイキング)
- 7月 感染対応につき実施できず
- 8月 感染対応につき実施できず
- 9月 おやつレク (かき氷)
- 10月 おやつレク (フルーツポンチ)
- 11月 ゲーム大会 (ボーリング・ストラックアウト等)
- 12月 おやつレク (リンゴのパンケーキ)・クリスマス会・餅つき
- 1月 感染対応につき実施できず
- 2月 おやつレク (チョコレートプリンドリンク)
- 3月 おやつレク (2色三氏パン作り)

※ その他、毎日午前10:30~集団体操

塗り絵・脳トレドリル・かるた・百人一首・クイズ  
体操・貼り絵等を実施。

## 3-7 介護予防通所介護・通所介護部門

### 【 目 標 】

1. ご利用者様の思いを尊重し、個別化したケアの提供
2. 職員の資質向上（人を活かして育てる）
3. 近隣地域と連携し共に、築くデイサービス
4. 感染対策の徹底

### 【 事業概要 】

営業日 … 月曜日～土曜日(祭日含む) 1月1日～3日は休業  
サービス提供時間 … 9:30～16:30  
利用定員 … 30名

### 【サービス内容】

送迎サービス・食事の提供・入浴・レクリエーション・生活相談  
健康チェック・その他、必要な介護・個別機能訓練

### 【ご利用者の状況】(2023/4/1～2024/3/31 現在)

#### (1)年齢構成

年 齢	男	女	計
50～59	0	0	0
60～69	2	0	2
70～79	5	8	13
80～89	5	31	36
90～	5	16	21
合 計	17	55	72
最高年齢	98	99	
最低年齢	61	74	
平均年齢	83.4	86.9	86.1

(2)介護度内訳 (3/31 現在利用中のお客様のみ) … 平均介護度：2.2

介護区分	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
人数	2	5	12	13	10	7	2

(3)新規利用受入れ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	2	2	2	8	2	2	3	1	0	0	1	1	24

(4)終了理由

理由	入所	転居	入院	死亡	療養	他DS	自己都合	合計
人数	6	0	6	2	1	0	5	20

(5)月間利用状況 延べ人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
営業日数	25	27	25	25	24	26	26	26	26	24	25	26	305	25.4
稼働日数	17.9	18.5	17.8	20.2	19.25	19.6	18.9	19.0	19.6	19	17.9	18.5	226.15	18.8
月合計	483	500	445	507	462	510	492	496	510	456	448	482	5791	482.5
稼働率	64.4	61.7	59.3	67.6	64.2	65.4	63.1	63.6	65.4	63.3	59.7	61.8	759.5	63.2

職員家族インフルエンザの為休業

6/29.7/6 (2日間)

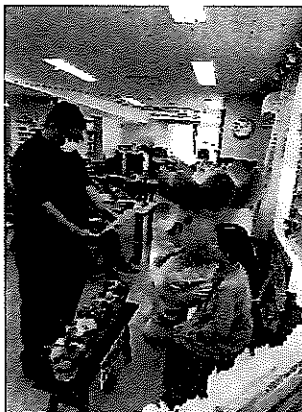
職員コロナ感染の為休業

8/16.17.18 (3日間)

## 【年間行事】

	内 容
4 月	壁画作成・おやつ作り（桜餅・どら焼き）
5 月	こいのぼり作り・柏餅風ワッフル・カーネーション作り・バームクーヘンこいのぼり・藤の花
6 月	壁画・パン屋
7 月	七夕（短冊・飾り作り）・パン屋、あんみつ、クリームソーダゼリー
8 月	おやつ作り・すいか割り×2・クリームソーダ
9 月	敬老会・玉入れ
10月	ハロウィン衣装パーティー・月見壁画
11月	おやつ作り（焼き芋）・ホットケーキ・秋祭り・パン屋
12月	壁画ツリー作り・クリスマス会・餅つき（施設協同）・熊手制作・絵馬・鏡餅被り物作成・12/1 デイサービス開設記念日焼き芋レク
1 月	初詣レク・干支壁画・パン屋
2 月	節分・お汁粉・壁画・チョコレートプリン・パン屋
3 月	ひな祭り・お雛様作成・桜餅・園芸レク
定期	毎 月：カレンダー作り・壁画・体重測定 食 事：主菜セレクト(毎日)・行事料理（イベント食） おやつ：ドリンクセレクト

敬老会



デイサービス開設記念日



餅つき



## 【研 修】

	内 容
4月	随時⇒褥瘡・記録・排泄
5月	法人理念
6月	ターミナル・食事・口腔ケア
7月	感染
8月	リスクマネジメント
9月	虐待・身体拘束
10月	リスクマネジメント・認知症
11月	感染予防
12月	BCP
1月	認知症
2月	虐待・身体拘束
3月	BCP・入浴介助加算に係わる研修

※教育研修室主催

## 【総 括】

令和5年度の実績は、1日平均18.8名、平均稼働率は63.2%でした。

感染対応に伴う休業は5日間となりました。

1年を通し、感染対応を重視した為、ご利用者様には自席で出来るレクリエーションや壁画制作、フリーダムを活用した体操、脳トレーニングプリントなどを実施しました。

また感染対策を徹底しながら、季節行事（年間行事参照）やおやつレクリエーション活動を計画実施し、四季や非日常を感じていただけるよう工夫しながら実施しました。

ご利用者様からのご要望に沿ったレクリエーションをご提供させていただきました。

デイサービスではご利用者様、ご家族様の思いを尊重したケアを行うために、職員間での情報共有の徹底やケア方法の統一・見直しを行い日々ご提供させていただきました。

また研修を通し、不明な事をそのままにせず共有し、夕礼を生かし話し合いを行いました。

しかしデイサービス全体でのミーティングは実施ができていないので、今年度は感染対応を行いながら実施したいと考えております。

来年度も引き続き感染対応を行いながら事業所での対応方法を検討し、地域の事業所また、ご家族様との連携・連絡を取り信頼関係を深めます。

また、各事業所に営業を行い新規獲得や、現ご利用者様に振替ご利用や増回の案内をし、稼働率アップにつながるよう努めます。

ご利用者様に安心して利用していただくためにも、職員一同情報の共有と連携を図り、接遇を意識し統一したケア、個々に合わせたケアをご提供させていただきます。

## 3-8 居宅介護支援部門

### 1. 居宅介護支援事業

#### (1) 新規受け入れ

- ・千葉市あんしんケアセンター、病院及びご家族から直接の依頼あり。
- ・定期的にあんしんケアセンターへの訪問を実施。
- ・入院された利用者様の病院へ地域連携シートを提供し、地域連携室 MSW とコミュニケーションをとるよう心掛けている。

※令和5年4月～6月2名、7月以降3名体制時で報告 ※ ( ) 内は1名当たりの担当数

目標実績件数 4月～6月 要介護70(35)件/月 要支援16(8)件/月

7月～3月 要介護105(35)件/月 要支援24(12)件/月

年度末延べ件数 要介護件885件・要支援129件(0.5件換算) 稼働率79.36%

実績無し 45件(年間)

R6年3月現在 契約件数(要介護87件・要支援12件)

管理者：要介護31件・要支援7名/専任：要介護34件・要支援2件/要介護22件・要支援2件

- ・4月より1名増員。引継ぎ利用者不在の為稼働率は7月分より換算する。
- ・契約しているが、入院やサービス利用休止される方がおり、実績に反映されない。
- ・体調の変化により区分変更される利用者様がいる為その都度対応している。
- ・2名体制から3名体制となり7月の稼働率は下がったが、常時、包括、病院などに依頼を受けることを

伝えてきた。7月稼働率61.3%から3月85.58%と上昇しており、今後も稼働を上げていく予定。

- ・実績にならないが、利用者様やご家族等の相談や対応を行っている。

(2) 隔週で居宅会議を開催し、業務内容や申し送り事項、及び利用者情報等の共通理解や事例検討を行い事業所として、問題解決を図るよう心掛けている。

法令遵守し安定した運営をすることを心掛けているが、業務点検や自主点検迄は定期的に行うことができていない。介護支援専門員3名で声を掛け合いながら確認していくよう注意していく。

### 2. 要介護認定調査委託事業

(1) 千葉市各区、その他の自治体からの委託依頼を受けているが、感染拡大予防の観点から前年度に引き続き、同じ法人内特別養護老人ホーム入所者及び、居宅利用者の認定調査のみ委託を受けて実施した。

令和6年5月に認定調査員研修を実施。3名体制で対応した。

R6年3月末延べ24件「千葉市18件・蕨市1件・船橋市2件・西宮市1件・江戸川区2件」

### 3. 事務処理を円滑に行うため業務の分散化を図る。効率よく業務を遂行できるように努める。

契約書等の書類製本は介護支援専門員で時間がある時に行っている。

3名体制となりコロナ禍の中、PCR検査を定期的に行う等、独自の感染予防対策を実施しながら、業務に当たってきた。またワイズマン対応のタブレットを使用することで、在宅勤務時等も、業務を遂行する。

新規契約者の対応、緊急時対応、心身機能の低下からサービス内容の見直しなどにより書類作成や入力業務を行う為残業することが多い。

事務処理や業務が円滑に行うために見直し等を相談していく。

### 4. 質の高いケアマネジメントの推進

介護保険改正にあたり、質の高いケアマネジメントを推進するために5年ごとの更新研修を受講。

### 5. 職員の資質向上のための研修（関係機関との連携・地域とのつながり）

(1) 自身の日程調整を行い、できる限りオンライン研修や集まりに参加し、医療機関・あんしんケアセンター・サービス事業所・地域との連携を作り、関係を深めていく努力を継続する。

(2) 令和6年4月1日介護保険制度改定に基づき、虐待防止に対する措置を講じる。

・虐待防止に関する責任者の制定 管理者が担当する。

・指針の整備、従業員に対する虐待防止の啓発・普及の為の研修、虐待事例発見時の通報。

(3) 災害・及び感染症に対する『業務持続化計画』の策定、計画に対する研修、訓練の実施

	研修内容
4月	圏域主任ケアマネ連絡会 介護支援専門員更新研修（1名）
5月	圏域主任ケアマネ連絡会 介護支援専門員更新研修（1名）
6月	第1回稲毛区ケアマネ研修会 高齢者虐待防止推進セミナー BPCフォローアップ研修
7月	稲毛区ケアマネ事例検討会 ケアマネ現任研修Ⅰ
8月	稲毛区自立促進ケア会議 高齢者虐待研修
9月	稲毛区内地域ケア研修
10月	ケアマネ現任研修Ⅱ 稲毛区内地域ケア会議
11月	ケアマネ現任研修Ⅱ
12月	第2回稲毛区ケアマネ研修会 主任ケアマネ会議
1月	主任ケアマネ会議 稲毛区ケアマネ事例検討会 稲毛区ケアマネ研修会 救急医療、在宅医療介護連携会議
2月	主任ケアマネ会議 令和5年度専門職研修 圏域会議
3月	



## 3-9 ボランティア部門

新型コロナウイルス感染予防の為中止

## 3-10 機能訓練部門

### 【 目標 】

1. ご利用者様の心身に合わせた個別機能訓練の実施と安全で快適に過ごして頂くための福祉用具等の提供
2. 新型コロナウイルス感染対策の継続
3. 地域へ貢献できる活動

### 【 事業報告 】

1. ご利用者様の心身に合わせた個別機能訓練の実施と安全で快適に過ごして頂くための福祉用具等の提供

職員体制としてデイサービス常勤1名が退職し、特養常勤：原澤・兼任常勤：黒沢へと途中から変更となった。今年度は感染症対応を行いながらも訓練を実施することができ、特養の体制加算人数は年間を通じて平均86.3名(定員90名)となった。

通所介護においては機能訓練指導員1名が退職し1月から機能訓練は中止となっている。短期入所においては体制加算のみ算定しているが、前年度同様にコロナウイルス感染対策や人員不足もあり、個別機能訓練は中止していた。

また、車イスや福祉用具の入れ替え・購入を行った。

- ・車イス MIKI KJP-5 1台
- ・センサーマットベッドコール・ケーブルタイプ2台、コールマット・徘徊コール3台

2. 新型コロナウイルス感染対策の継続

昨年に引き続き、小まめな消毒や手洗いの実施や感染対応ユニット・フロアへの往来の制限をする等、感染症対策を励行することができた。

### 3. 地域へ貢献できる活動

昨年と対応に変化なし。コロナウイルス感染拡大防止の観点から、地域活動は令和3年度から中止となっている。

## 【 総 括 】

令和5年度は職員体制が維持できず、デイサービスを中心に機能訓練加算を算定することができなかった。次年度は職員体制が整い次第、各部門において加算を算定できるように準備を進めていく。また今後も機能訓練士全員が感染症拡大防止の意識を持ち、ご利用者様個人に合わせた質の高い訓練を提供できることを目標に支援・活動を行っていく。

## 3 - 1 1 事務部門

### 【 目 標 】

事務部門は法人の理念・基本方針・中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

#### 令和5年度目標

1. 離職防止のための職場環境の整備
2. 人材定着と雇用管理
3. 外国人雇用管理の徹底
4. 施設経費削減

### 【 施策・評価 】

#### 令和5年度施策と実績

1. 離職防止のための職場環境の整備
  - 1) 個人の事情に配慮した支援を行った  
介護休暇、看護休暇、育児休暇（パパ育休）、時短勤務
  - 2) 積極的な情報開示（見える化）  
HPに処遇改善、行事、フードバンク、農福連携等も開示した
  - 3) 職員の多面工化による効率化  
ケアワーカーと間接部門両方をカバーできるジェネラリストの育成に力を入れた
  - 4) 技能の適切な評価  
介護福祉士手当の増額を実現

5) 地域社会への積極的貢献

フードバンク、農福連携等で地域社会との関りを広げた

2. 人材定着と雇用管理

- 1) 同一労働同一賃金を採用し、賞与等で適切な評価を行った。
- 2) 介護職員全員が介護資格取得することに取り組んだ。

3. 外国人雇用管理の徹底

- 1) 国籍に関係なく無資格者には初任者研修の受講を行った。
- 2) 千葉県留学生受け入れプログラムの受け入れ施設へ参加。令和4年5月以降に介護の専門学校に通いながら働く7名が1年後の介護福祉士試験合格を目指す。

4. 施設経費削減

- 1) 新型コロナウイルス感染症対策で事業費、事務費ともに増大した。特に電気代の上昇が大きい（月によっては倍増した）  
市と県より物価高騰対策補助金の交付を受けた。
- 2) 清拭、リネン類の価格高騰が見込まれたのでレンタルから購入等へ見直しを図った。

【主な経費】

給茶器	327,570 円
事務消耗品	1,049,481 円
印刷代	747,038 円
職員健康診断	601,835 円
職員インフルエンザ予防接種	326,400 円
社員食(昼食補助)	91,627 円

【 業務スケジュール 】

月	総務・人事	経理・他
4 月	処遇改善計画書提出	月次決算
5 月		第 1 回理事会 第1回評議員会
6 月	処遇改善実績報告書提出	第 2 回理事会
7 月	夏季賞与・処遇改善加算金支給 社会保険標準報酬月額基礎届	労働保険料第一期納付
8 月	職員健康診断	
9 月	永年勤続表彰	
10 月	非常勤職員契約更新	労働保険料第二期納付

11月		第3回理事会
12月	冬季賞与	
1月	支払調書、法定調書提出	労働保険料第三期納付 第4回理事会
2月		事業計画作成 第5回理事会
3月	処遇改善加算金支給・昇給人事考課 特定従事者健康診断	第2回評議員会 第6回理事会

## 3-12 教育研修部門

### 1. 教育研修業務実績

1回目	2回目	研修内容
5月		法人理念
6月		ターミナルケア（終末医療）食事・口腔機能に関する研修
7月	10月	感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止に関する研修
8月	10月	事故発生の防止のための研修
9月	2月	高齢者虐待防止の研修
9月	2月	身体拘束等の適正化のための従業者に対する研修「
10月	1月	認知症及び認知症ケアに関する研修
12月	3月	災害及び感染症に係る業務継続計画のための研修
随時		排泄・褥瘡対策に関する勉強会・研修
随時		記録と情報の共有
随時		感染症及び災害に係る業務継続計画のための研修（炊飯デモ）

#### ① コロナ等の研修体制及び動画導入について

コロナ・インフルエンザ等の感染症対策時においても、研修継続に取り組むため動画配信 視聴、レポート提出を導入。年間を通し研修計画に基づく施設内研修にとり組んだ。

各フロア分散研修開催は感染対応にて開催困難が生じたこともあり今後の課題となった事は否めない。半面、外国人職員にとってユニットリーダー、職員によるサポートが受けられたことで研修レポート提出率がアップしたことは大きな成果と考える。

#### ② 外国人職員のサポート体制について

各フロア、ユニットにおける実務教育へ移行しつつある。

学習との両立の支援は重要事項であり、現行、施設長、介護主任を中心に教育研修を実施。現状、記録、申し送り等に活かされてきている。  
今後、さらに教育内容の充実を図り、外国人職員のみでなく新入職員への研修体制の構築を図ることも視野に置く。  
特定技能職員、技能実習生職員計11名3月末に初任者研修取得できた外国人職員対象に夜間救急研修の実施（マンツーマン指導）  
来年度から毎月ミニ研修を実施していく

### ③ キャリアアップ 支援体制について

資格取得を支援する研修の推進、稲毛ペコリーナ開催研修（初任者研修・実務者研修）受講への推進により、資格取得がなされ介護現場における業務に活かされている、今後も随時対応していく方向。

園内においては「介護福祉士対策講座」「介護福祉士模擬試験」を実施  
今年度実績2名合格（2/2）介護職員＝介護福祉士を目指す

令和6年度は介護福祉士実務者研修受講、介護福祉士受験者が13～14名の予定のため施設上げてバックアップしていく  
留学生に関しては中央介護専門学校と連携し試験対策講座を行う

### ④ 各種マニュアルの見直し

業務マニュアル、委員会マニュアルの見直しを図り、現状に合わせた内容  
補足事項を追加  
「稲毛こひつじ園ケア基準書」を再考し見直し、現行に即したものに改定し  
各部署、ユニットに配布

## 4 各委員会実績報告

### 4-1 安全対策委員会

#### 【目標】

- ・介護事故を起こさない為に、多職種協働において事故を予測し、組織的に事故予防に取り組む
- ・事故再発防止の為に原因究明・再発防止の為に方策を検討・実施し、安心して介護サービスを受けられる環境を整備する
- ・利用者様の高齢化、重度化に伴い介護事故が利用者様の全身状態に与える影響が大きい事を認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来る様習得を図る

## 【具体的な活動報告】

1. 月ごとに委員会を開催し、各階の事故の件数・内容を委員会で把握した。それに対してのユニットごとの対応も報告してもらい、議事録及び委員からユニットへの呼びかけによって、周知と共有を行った。
2. 医務とは処置での対応のほか、内服している薬の確認や見直しを共に行い、適宜必要な助言を得ることができた。
3. 機能訓練士と営繕職員とも協力し、車椅子の点検呼びかけ、テンキードアの注意点の確認など、福祉用具と設備の面でも事故予防を行った。
4. 委員長がオンライン研修を受け、現場に必要と考えられる知識を再編成し、2回に分けての研修と資料の配布を行った。また、それに対して職員から研修報告書の提出をしてもらい、知識定着の確認と意見の収集を行うことができた。

### 『8月 リスクマネジメント研修』

研修内容としては、事故に対しての基本的な考え方、防ぐためにはどうするべきかをまとめた。組織全体での情報共有（コミュニケーション）の重要性、サービスの標準化と個別化を解説した。また、外国人職員が増えていることもあり、記録と報告をすることの重要性も確認した。

### 『10月 アンガーマネジメント研修』

事故の発生は各個人の注意力や観察力にも起因しており、疲れや怒りの感情はそれらを低下させてしまう。怒りの発生する仕組みと、それをコントロールする方法を確認した。アンガーマネジメントは虐待とも関連付けられる知識のため、重大事故の防止に必須である。

## 【今年度の事故件数と内容から考えられる問題点】

- ・薬に関する事故のうち「服薬忘れ」では、服薬表が確認しづらいとの意見が出た  
⇒ユニットの特徴に合わせて、より使いやすい服薬表の作成を行い見本として配布する  
⇒服薬表だけではなく、服薬時の確認手順などの資料も再作成する
- ・転倒が起きた後に、内出血と剥離が関連して増えている  
⇒転倒時点で、経過観察と皮膚の保護を意識する必要があることを呼びかける

- ・内出血の増加傾向がある
  - ⇒内服している薬を把握し、各入居者に合わせた衣服での保護や、他部署と連携して生活環境の見直しをする必要もある
- ・事故報告書の内容に記載漏れや、情報の不足があった
  - ⇒外国人職員のために、改めて事故報告書の書き方と、特に必要な語彙の習得を研修として行う

### 【今後の活動について】

毎月の委員会開催と議事録を活用し、事故・ヒヤリハットの把握と再発防止のための対応を検討し周知する。研修では外国人職員にも理解しやすく、より事故発生防止を意識できる内容を提供する。

マニュアル(救急搬送・虐待疑いや重大事故発生時の委員会の招集について・事故や外傷の写真の範囲・身体拘束該当項目一覧)や帳票の提案・作成・見直しを行っていく。

専門職との事故予防の検討を行い、内容について周知する。福祉用具の活用なども含め、多職種と連携を強化し、安全で快適な生活を提供していく。

## 4-2 衛生委員会

### 【目標】

労働災害防止の取り組みは労使が一体となって行う必要があるため、衛生委員会において労働者の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などの重要事項について十分な調査審議を行う。

- I. 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関する事。
- II. 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事。
- III. 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に関する事。
- IV. 前三号に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康保持増進に関する重要事項。
- V. 入居者健康診断（年1回）、職員健康診断（年2回）、ストレスチェック（年1回）、職場巡視（月1回）

### 【施策・評価】

職場の健康障害防止・健康保持増進・労働災害防止のための活動を行うため以下の内容で年間計画をたてる。

#### I. 腰痛対策についての検討

1. 腰痛予防・腰痛緩和の取り組みとして、毎日2回（午前・午後）ラジオ体操の放送を流しているが、勤務の都合上、体操実施にはつながっていない状況にある。次年度では、職員の腰痛・腰痛緩和の取り組みとして、職員のラジオ体操実施が浸透し、実施できる職場環境作りの働きかけを目指して行く。

#### II. 職員健康診断の実施

1. 今年度10月に全職員対象、3月に夜勤従事者対象の健康診断を実施。  
健康診断後の健康相談について産業医へ相談ができることをメールで配信。  
しかしながら、健康相談の希望はなかった。今後も健康相談ができる旨のメール配信を継続していく。健康診断に伴う保健指導があり、対象者は面談を実施している。  
利用者の中で感染症保有者が増え、次回健康診断にて検査項目の追加が予定される。

#### III. 巡視チェックリストの提出・検討

1. 巡視チェックリストは毎月第1週目には各部署、提出しており、職場巡視の重要性を認識していた結果だったといえる。今後もより良い職場環境作りため、巡視チェックリスト提出の徹底を図っていく



今年度より冷蔵庫内の管理を項目に追加。庫内が適正に使われているかチェックし、お互いに使いやすい環境にしていくことを図る。

#### IV. ストレスチェックの実施

1. ストレスチェックを12月に実施。実施後の産業医への健康相談希望者はいなかった。

今年度は昨年度に比べストレスの度合いが増加。次年度でもトレスチェックの重要性を伝達していき、積極的な参加を促していき、心身共に障害なく、健康に勤務できる職場環境作りに取り組んでいく。

#### V. 働きやすい職場環境作り

1. 今年度も職員や職員家族にコロナ、インフルエンザ感染者が発生。感染拡大には至らなかったが、施設内が感染対応となる期間があり、また急な勤務変更や、職員の業務負担が増えた1年であった。ストレスチェックの数値も去年より悪化。さらに、労災事故の発生も今年度もみられた。対策として中央の外階段に滑り止め塗料の塗布（現在進行中）や光源の強いライトを設置し転倒転落の再発を防止。

B型肝炎やC形肝炎、MRSAなどの感染症を保有した利用者が増えていることから次回職員の健康診断では感染症に対する項目も増やすことが決定。法人負担してもらえるように決定となる。次年度も引き続き、働きやすい職場環境作りとより良い・職場環境作りに力をいれて取り組むよう努力していく。

## 4-3 褥瘡対策・排泄支援委員会

### <褥瘡対策部門>

#### 【目標】

適切なケアにより、褥瘡が発生しないもしくは発生率が低い状態とし、QOL向上に努めることにより、心身ともに穏やかな生活を送られるよう支援する。

#### 【施策・実施状況】

- 1、毎月1回の委員会は感染対応により各部署からの現状報告にとどまることもあり、意見交換、問題改善への取り組みが不十分な面もあった。
- 2、多職種連携により、褥瘡の早期発見に努めていても、発生した場合はすみやかな早期改善を目指すための情報共有を行った。
- 3、褥瘡予防を目指した食事・排泄のケア、体位変換技術等を習得するために各ユニットに

て随時 OJT 指導を行った。

4、入所時及び 1 回/3 か月ごと入居者別にモニタリング指標を用いた評価を行い、ケア計画書の作成と見直しを行う呼びかけと実施確認を行った。(4・7・10・1月実施)

#### 5、年間褥瘡処置発生件数

##### 1) 褥瘡発生部位

臀部	9 件	背部	0 件	大転子部	0 件
外踝	1 件	踵	4 件	足趾	1 件

##### 2) 対応策

①毎日の医務処置と観察

②原因の追求と対応策の提案

③おむつ内環境を整える等の清潔保持。

褥瘡・傷がある人には洗浄液を使用しないで、微温湯のみで陰部洗浄をすることを徹底する。

④皮膚の蒸れを軽減し皮膚トラブルの予防をするため、ラバーシートをはずすことを推奨。

⑤適宜、褥瘡予防用具の使用を推奨。

マキシフロートマット、スライディンググローブの使用。

⑥機能訓練より除圧、摩擦の予防、具体的な体位交換、ポジショニング法の指導を受ける。

⑦栄養面のサポート

毎月の体重測定から BMI を算出し低栄養状態の入居者様をピックアップし、ハイリスク予備軍の確認を実施。また低栄養状態の入居者様の体重測定を月 2 回で実施し栄養補助食品の提案、検討を行う。

⑧マットの見直しを行い、適宜、エアーマット・マキシフロートマットを褥瘡の有無や低栄養の方に優先的に導入。

以上①～⑧の対応策により褥瘡予防、皮膚状態の増悪防止ができた。一方で同じ部位に皮膚トラブルが再発するケースもあった。

#### 【考察】

表皮剥離や褥瘡等の皮膚トラブルが発生した時、関連部署との連携により情報共有、早期発見により対応ができた。今後も正しい姿勢、体位交換、清潔保持、栄養状態の観察、体調管理に努め褥瘡予防に施設全体で取り組むことを目指した呼びかけを続けていく。

引き続き褥瘡予防・対応に関する知識を得ていくために、研修を行っていく。

発生した場合は適切な褥瘡ケアを各部署と連携しチームケアとして取り組むこととする。

#### <排泄支援部門>

##### 【 目 標 】

排泄は、非常にプライベートな行為である為、誰かの手を借りることに抵抗がある。失禁などの失敗をしたときにネガティブな状態に陥ったりする。

自尊心を傷つけずに生活機能の維持を図る支援を目標に多職種連携による ADL の維持・改善に努める。

##### 【施策・実施状況】

- 1・多職種協働によるカンファレンス・メーカー主催のオムツ研修を実施する。
- 2・オムツ使用の適正化を継続して働きかけた。
- 3・入居者様にあった排尿・排便時間のルーチン化については、各ユニットで出来ているととらえ、排泄委員会としては、関わらなかった。

##### 【今後の活動】

排泄と皮膚に関する職員の意識改革に重点をおき、講習会の開催・また委員がフロアの排泄を見回り、適正化を図れるよう支援していく。

また、メーカーの支援も受けながら、排泄のメカニズム等の再学習の機会を設ける。

## 4 - 4 防災委員会

【令和5年度活動】 月1回 第3火曜日 15:00~開催

- ・防災時における、水、食料、それらに伴う器具、設備品の管理
- ・防災ルート・避難経路・施設周辺の環境整備の確認
- ・避難訓練の実施 災害時スムーズに避難誘導を行えるように職員へ情報の周知への取り組み

令和5年度 活動内容

4月 備品確認・集計 避難経路確認 施設周辺の環境整備 非常食シミュレーション 自主点検簿作成

5月 災害時の対策 施設周辺の環境整備 非常食シミュレーション 事業継続計画 自主点

#### 検簿作成

- 6月 事業継続計画 防災倉庫の備品確認 自主点検簿作成  
7月 消防（消火・避難・通報）訓練実施 暴風雨対策を検討 防災倉庫管理 非常食について 自主点検簿作成  
8月 非常食入替 事業継続計画 備品管理 自主点検簿作成  
9月 消防設備点検結果確認 非常食試食・アンケート 自主点検簿作成  
10月 消防設備点検報告 消防設備の使用方法確認 避難経路確認 喫煙所管理 防火管理担当確認 漏電対策 蓄電池の活用確認 防災倉庫管理 地震対策について検討 自主点検簿作成  
11月 電化製品の定期点検と発火時の対応 事業継続計画 自主点検簿作成  
12月 非常食備蓄・管理 避難訓練を検討 自主点検簿作成  
1月 感染対応の避難訓練を検討 防災倉庫管理 自主点検簿作成  
2月 消防設備点検報告 自主点検簿作成  
3月 かまど太郎で炊飯、変圧器使用方法施設内研修 自主点検簿作成

- ・訓練ごとに委員会にて反省行い、改善点、見直しを会議
- ・台風や震災等、災害対策の検討
- ・その他、防災等に関する事項の検討

入居者・職員の安全を確保しながら、事業を継続できるように取り組んでいきます。  
地域の資源としての役割を果たす事ができるように取り組んでいきます。

令和5年6月19日 避難訓練

日時：稲毛こひつじ園 14:00～14:30

参加者：入居者、職員

想定：夜間想定とした避難訓練

【1、2、3階評価担当の意見】

日中の避難訓練とは違い職員数が少ないので一人ひとりの役割が多い事、入居者避難、消防との通報、消火活動。消防との連絡体制が決まっていなかったので1-1職員が消防に連絡決まった。入居者を誘導する場所の灯りない事の気づきなどがあった。

令和5年11月29日 避難訓練

日時：稲毛こひつじ園 14:00～14:30

参加者：入居者、職員

想定：日中を想定して避難訓練

【1、2、3階評価担当者の意見】

職員間声掛けは少なく、担当番地が終了すると他番地への応援に行く姿も見られたが殆

どが担当番地にいた。各階ドアを閉め、ネームプレートのずらしができたいた。職員、入居者口をタオルで塞いでいなかった、ヘルメット着用していた。廊下にオーバーテーブルが置いてあり、避難の妨げになっていた。

令和5年11月29日 水消火器の訓練

日時：稲毛こひつじ園 14:30～15:00

参加者：職員

想定：消火器に使用方法

【1、2、3階評価担当者の意見】

消火器を初めて触った職員が多かったのが良かったが外国職員が職員の説明で理解できたのか不明。

令和6年3月28日 変圧器使用方法

日時：稲毛こひつじ園 14:00～14:30

参加：職員

想定：

【1、2、3階評価担当者の意見】

2月5日夜間帯（22～5）落雷の影響で停電されました。時間を4時間ぐらい停電していたそうです。施設には発電機がないので在宅酸素、吸引機などが使用できません変圧器の使用方法を覚え、いざ停電時備えが必要。

令和6年3月28日 かまど太郎

日時：稲毛こひつじ園 9:00～14:30

参加：職員

【1、2、3階評価担当者の意見】

約2年ぶりのかまど太郎の使用だったので

職員がかまど太郎の使用方法を知っている職員が少なくなっている。

今後は使い方を覚え災害時備えが必要。

## 4－5 食中毒蔓延防止・感染対策委員会

### 1. 感染委員会年間経緯

- 6月 マニュアル見直し
- 7月抗原検査月2回→1回に変更
  - 疥癬予防の為バルサン散布実施
  - 施設内研修（感染対応・食中毒予防）
- 8月抗原検査月1回2回に変更（近隣でコロナウイルスクラスター発生したため）
  - 感染グッズの在庫管理・換気の呼びかけ
- 9月1階コロナクラスター発生・2階コロナ発生
  - 感染対応グッズの在庫管理
- 10月施設内研修（コロナ・インフル・ガウンテクニック）
- 11月加湿器使用
  - 消毒薬一覧表改訂
- 12月抗原検査の使用期限管理・年末年始の検査実施
  - 食中毒・トコジラミへの注意喚起・
- 1月抗原検査の使用期限管理
  - インフルエンザ流行への注意喚起
- 2月感染対応中の検温及びメール報告の方法
  - 定期抗原検査の実施終了
  - B型肝炎利用者様の対応
- 3月B型肝炎利用者様の対応・職員への対策

## 2. 反省

### ○感染対策について

- ・発生時の報告・対応が早く感染拡大を防げていた。・マニュアルで対応できるようになった。
- ・職員へのショートメールの発信がなくなり、出勤してから気づくことになった。
- ・職員個々のマニュアル把握もされてきており感染対応は以前よりスムーズに行えてきている（外国人除く）。

（機能訓練）特養とデイも兼任しているため、副施設長と相談しながら行った。感染対応になったときは中止し次週に変更し対応した。

（事務所）発熱者（感染疑い⇒感染）への対応が曖昧

（デイサービス）感染対応マニュアルが作成でき活用できた。不慣れな点はあるが、利用者の発熱対応等はデイサービス内で対応できた。風症状のある職員の勤務についての判断は今後整えていく。マニュアルがまだ浸透していない。

（栄養課）施設管理栄養士・委託業者内でコロナ感染者が発生した。標準予防策や日清食堂内の人数制限対策を行っていたがクラスターとなった。委託業者チーフ・施設管理栄養士不在だったが、感染対応時の経験があったので配膳・下膳の大きな混乱はなかった。

（医務）発熱⇒抗原検査等の対応は出来ている。

(居宅) 外部との接触多い為、利用者家族など発熱がないかどうか確認しながら訪問している。

#### ○感染グッズ（在庫管理含む）や周辺業務（環境整備）

- ・コロナ感染時の衣類回収をもう少しスムーズに行えるとよい。
- ・各ユニット定期的に感染グッズの在庫チェック行った方が良いと思う。（使用済みフェイスシールドが入っていたことがある）
- ・各ユニットのグッズはリストの作成によって管理されてよかった。
- ・抗原検査キットの使用期限はわかりやすいように保管する。

（機属能訓練）手袋・終了後の手洗いは継続している。抗原検査キットは3個常備し対策できている。

（栄養課）委託業者のヘルプが間に合わずディスコ食器を使用することになった。日清食堂内の他、防災倉庫にも在庫があり在庫管理を行っていたので不足にはならなかった。

（デイサービス）抗原検査キットを期限内に使用しきれなかった。感染グッズの発注方法を明確にした方がよい。抗原検査キットをすぐ受け取れるようにする。

（事務所）コロナ発生時の備品管理、N95 マスクの有効期限管理が必要になる。

#### ○その他

- ・留学生・外国人・一部の職員は出勤時に着替えることなく勤務に入る人がいる。通勤手段はそれぞれ違うがウイルスの持ち込みが懸念される。
- ・感染対応時、特に外国人スタッフに対応が出来ていない人がいるので勉強会を開いてほしい。
- ・手を洗わない（排泄介助後、自身のトイレ後等）職員がいる（外国人に多い傾向）ため、細かな声掛け（啓発）してほしい。

ユニットではポスターにして周知する対応をしている。

- ・疥癬の発生がなくてよかった。発生しなかった検証をしてはどうか。

（機能訓練）感染対応時はフロアに入れられないため訓練中止あり。利用者の健康を考え現在の対応を継続していく。

（居宅）各フロア人員ぎりぎりの中で職員の頑張りがあった情報周知が出来ていたことは良かった。営繕職員やメールを見られない環境の人にもしっかりと伝達できるようすることが大切。

#### ○改善点・次年度への要望等

- ・以前のように感染対応をメール配信してほしい。感染対応と知らずに業務に入ってしまうことがある。
- ・予防対応・疑い対応・発症対応と呼び名を変えてはどうか。
- ・感染対応の基準の緩和について施設の方針の見直し検討していくべきではないかと思う。
- ・マニュアルと実際の感染対応に違いあり。
- ・加湿器の汚れやカビ対策の為に週の中で掃除する日を決めたほうが良いのではないか。
- ・新規入所の方の洋服は1度洗濯してから使用してほしい。（汚れやトコジラミ等）

- ・臨機応変にと言われることがあるがその範囲が不明。
  - ・上の指示を仰ぐという指示もあるがいない時もあり、対応が遅れる。
  - ・技能実習生だけの勤務の時は感染対応が厳しい。
  - ・外国人の職員も増えているので研修を強化してほしい。文章では理解することが難しい事もあるので写真や実際に体験してもらいながらの研修の方が良いのではないか。
- (居宅) 5 類になったが感染予防に関しては今までのように対策持続が必要であると感じる。
- (栄養課) 委託業者内の連絡が不十分で出勤後に抗原検査を行ったケースがあった。チーフ不在時の連絡方法を作成・周知する。各自で自宅・ロッカーに抗原検査キットを準部することとなった為、栄養課は独自で在庫したい。
- (デイサービス) デイサービス利用者は特養利用者と年齢層が違うため、感染症の流行も異なると思われる。今後、調べたり研修等の機会も設けたい。感染発生時の対応をよりよくするため、基礎を固めていきたい。その日にいる上司により判断が異なることがある為、もっと基盤を作っていきたい。

## 4 - 6 広報行事委員会

### 【目 標】

- I. 施設行事を開催し、入居者、ご家族、地域の方との交流を深め共存していく
- II. 季刊誌を発行し、ご家族、地域の方たちへの情報提供

### 【具体的な活動】

- 縁日 秋祭り 新年会 節分 コロナ渦のため、中止。
- 花火 2Fのみ実施 他フロアは感染対応状況や、天候状況により未実施
- 敬老会 感染対応中だったため、各ユニットごとにて実施。全体集合はなし。  
各ユニット、歳祝いの方へ施設長より表彰状の授与。利用者全員にタオルのプレゼント、歳祝いの方へ写真立て付きソープフラワーBOX 贈呈。  
各ユニット、デイサービスヘアレンジフラワー贈呈。  
デイサービスお客様制作した敬老会飾りを作成する。  
お祝い用のちゃんちゃんこ(黄色、紫色、ピンク)を購入し歳祝いの方に、着ていただき敬老会飾りを背景に記念撮影を行った。  
例年通り、職員表彰も行った。
- クリスマス会 12/23 各ユニットごとで実施。



昼食はクリスマスイベント食。

おやつにケーキを提供。トッピングを各ユニットで用意して菓子、ジュースを準備し各ユニットに配る。

○餅つき大会 感染症対策の為、デイサービスと各ユニットで道具を分け、更に巡回職員を最低限度にとどめて実施した。数年ぶりの餅つきの実施に利用者に喜んでいただけた。

○豆まき 感染拡大のため、中止。

#### 【総 評】

コロナウイルス感染の影響でイベント中止が続き、また、コロナ渦に伴い、発熱等による各ユニットの感染対応が常にどこかで行われている状況が続いています。

イベントだけでなく、職員同士集まることも少なくなっています。イベント開催のやり方も見直しました。

敬老会のように利用者様にとって大きなイベントを開催するにあたって、今回はお祝いの神輿をデイサービスの職員に制作していただき、各ユニットに移動させ歳祝いの方の写真撮影背景に使用しました。盛大なお祝いはできませんでしたが、記念に残る写真で喜んでいただきました。

施設全体での行事は出来ませんでしたが、各ユニットで工夫をし、利用者様に喜んでいただけるよう行いました。

次年度も状況は大きく変わらないと思われ、引き続き、小規模でも利用者様に喜んでいただけるイベント開催をしていきたいと思っております。





## 4 - 7 拘束廃止・虐待防止委員会

### 【目標】

拘束廃止を目標とすることで、日常業務での取り組みやユニット内での連携において各職員が必要な情報を共有し、施設全体で拘束を行わないサービスを提供する。

拘束廃止を実現していこうとする取り組みにおいて、その過程の中で生じた課題を受け止め、それらをケアの質の向上のきっかけとし、拘束廃止を最終目標とせず、よりよいケアの実現に向けて取り組んでいく。

### 【具体的な活動報告】

・安全対策委員会と合同で会議を開催し（会議時間は1時間）、連携をしながら意見交換、対策協議などを行った。

・身体拘束を行う可能性のある入居者に関する現状の把握と、問題に対する対応策の意見交換を毎月行った。

・内部研修（※法定研修）を開催した。

- ① 7月 「高齢者虐待防止」 「身体拘束防止」
- ② 9月 「高齢者虐待防止」 「スピーチロック」

③ 2月 「高齢者虐待防止」 「身体拘束防止」

※①は重大事故発生に伴う臨時研修

## 【センサーマット使用】

今年度、身体拘束同意書を通しセンサーマット使用した入居者が6名いた。

① I・M様 R3年9月5日 退院時使用開始・継続中

理由：ナースコール理解なし。ベッド上での体動があり。転倒・転落のリスクあり。

方法：センサーマットをベッド上に敷く/24時間

② H・S様 R4年10月12日入所時から使用開始・継続中

理由：ナースコール理解なし。動作が早い為転倒・転落リスク高い。

方法：センサーマットをベッド脇に置く/24時間

③ U・H様 R6年3月14日入所時から使用開始・継続中

理由：ナースコール理解なし。ベッド上での体動があり。転倒・転落のリスクあり。

方法：センサーマットをベッド上に敷く/24時間

④ I・Y様 R5年7月1日入所時から使用開始・継続中

理由：ナースコール理解なし。転倒・転落リスク高い。

方法：センサーマットをベッド脇に置く/夜間のみ

⑤ D・Y様 R6年3月14日入所時から使用開始・継続中

理由：ナースコール理解なし。ベッド上での体動があり。転倒・転落のリスクあり。

方法：センサーマットをベッド上に敷く/24時間

⑥ S・K様 R5年10月17日入所時から使用開始・継続中

理由：ナースコール理解なし。ベッド上での体動があり。転倒・転落のリスクあり。

方法：センサーマットをベッド上に敷く/24時間

## 【今後の活動について】

今後も引き続き「生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合は身体拘束が認められているが、当施設では身体拘束を廃止していく姿勢を堅持することを重要とする」という目標を第一として考え、入居者が安心・安全に暮らすことができる環境づくりと生活の質の向上を図っていく。

拘束廃止・高齢者虐待にかかわる介護保険法を遵守し、減算対象とならないようにする。

「拘束廃止」をゴールとせず、個々の課題を真摯に受け止めよりよいケアの実現に向けて行くことを目指していく。

## 4－8 入浴委員会

### 【目標】

- 1、入浴の目的、心理的、生理的、社会的、文化的な目的を踏まえて、ご利用者様に安全で快適な入浴を楽しんで頂く。
- 2、ユニット職員と入浴担当職員の連携、伝達を確実にを行い、ご利用者様それぞれに合わせた入浴を目指す。
- 3、各浴室を快適で安らげる空間であるよう取り組む。
- 4、感染対応時は状況により入浴し出来なければ清拭対応とする。

### 【対策・評価】

- 1、前年度に引き続き毎月の入浴剤の取り組みを行い、季節の変化を楽しんで頂いた。毎月さまざまな入浴剤で色や香りを取り入れた。
- 2、毎月の委員会にて各フロアの入浴状況を報告し合い改善に努めた。
- 3、入浴物品など劣化があるものは購入し利用者様の安全確保を図った。
- 4、シャンプーリンス値上がりした為泡タイプの全身シャンプーに一本化し作業の効率化を図る。
- 5、毎月の委員会で各部署からの要望に応え安全に入浴を実施できている為継続していきたい。

### 【考察】

- 1、入浴剤は毎月好評なため今後も続けていきたい。
- 2、入浴機器や物品は随時確認、点検し安全確保が必要。
- 3、各フロアの入浴状況は週2回、入れているが曜日の変更や1人介助入浴で余裕のある入浴とは言えない為、人員確保をして頂きたい。

## 5 地域福祉部門

### フードバンク活動

令和5年度フードバンク食材納品30トン

連携期間：八街市社会福祉協議会、睦沢町社会福祉協議会、城西国際大学、萩台天台あざみ自治会、あやめ台団地自治会

館山ジビエにご協力いただきイノシシのお肉を使用し、八街市の子ども食堂にてカレーライスを提供いたしました。この機会にイノシシのお肉、ジビエについて食育の一環としてお伝え出来て好評でした



### 地域との関わり

地域の防犯として月2回の移動交番の実施、こども110番設置にてシュミレーション訓練の実施、住民との防犯パトロールの実施  
防災協定を締結（萩台天台あざみ自治会）



夏休み時期に子ども会とイベントを検討していたが、特養コロナクラスターがあり中止しております。

## 6 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ

### 1. 介護人材の育成

#### 1) 実施状況

講座名	クラス	受講生	合計(延べ人数)
介護職員初任者研修	8	72	355
介護職員実務者研修	19	179	
福祉用具専門相談員	2	21	
同行援護研修(基本・応用)	2	12	
レクリエーション介護士2級講座	2	17	
介護福祉士試験対策及び模擬試験	4	54	

#### 2) 外国人介護職員の資格取得支援

外国人職員の初任者研修取得のため、外国人クラスを開講。課題のサポート時間や授業では、語彙に配慮するなど少しでも理解が深まるように努めた。

#### 3) 他施設への支援：浮間こひつじ園・接遇講習 浪岡の家・介護技術講習 やまゆりの里・導入研修

#### 4) その他委託事業等

- ・千葉県委託事業：介護に関する入門的研修、「期待しています！」シニア人材事業
- ・千葉市委託事業：母子家庭等就業支援介護職員初任者研修
- ・船橋市委託事業：介護と福祉の合同就職説明会事前ガイダンス 動画作成
- ・白井市委託事業：介護と福祉の就職フェア 運営サポート
- ・市原市委託事業：介護の魅力発信事業、キャリアアップ研修運営
- ・講話説明会依頼：日本国際協力センター、千葉県外国人介護人材支援センター
- ・高校交流会：犢橋高校、君津青葉高校、佐倉西高校
- ・千葉市地域日本教育推進会議参加依頼



## 2. 振り返り

通常の講座開講に加えて、出張講座の開講や委託事業にも積極的に提案参加を行った。介護職の担い手不足から初任者研修・福祉用具などに受講者減となったが、実務者研修では6クラスを増加(55人増)。これらには、各事業者からの外国人材需要を含めた依頼などもあり、外国人への授業配慮が他事業者に評価をいただいていることが要因。

次年度は、E-learningでの日本語学習や介護福祉士試験対策なども加え、新たな商品提

案を行う。また、委託事業では企画提案等により 11 件を受託。市町村から評価も得ている。委託事業を通じて施設と関係を構築し、地域への出張開講から新たな展開も行う。

社会福祉法人初穂会 事業報告

編集：稲毛こひつじ園

令和6年 6月 日発行



令和5年度

# 事業報告書

## 社会福祉法人 初穂会

朽木小規模特別養護老人ホームやまゆりの里

地域密着型小規模特別養護老人ホームやまゆりの里

小規模 やまゆりの里ショートステイ

地域密着型 ショートステイやまゆりの里

朽木デイサービスセンター

朽木居宅介護支援センター

やまゆりの里

2023年度 社会福祉法人 初穂会事業報告 やまゆりの里

【定員】 朽木小規模特養入所30名・短期入所6名・DS18名・居宅介護 【定員】 地域密着型特養入所20名・短期入所2名  
 【職員】 常勤 36人・非常勤 18人・合計 54人

	取組事項	実施状況	
施設運営	1.介護保険	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設：小規模特養・稼働率 92.9%、地域密着特養・稼働率 89.7%（年間延べ707日入院）退所者24名と多かった。</li> <li>平均介護度：小規模特養3.9、地域密着型3.5</li> <li>短期入所：稼働率平均42.5%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通所介護：稼働率49.3%延べ利用者2270名。</li> <li>居宅介護支援事業：担当実人数月平均31名、延べ利用者数376名。</li> </ul>
	2.サービスの質 職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内研修：リスクマネジメント研修・感染予防対策研修・褥瘡予防研修・身体拘束廃止研修実施。</li> <li>施設外研修：個人情報保護研修・職業倫理研修・身体拘束研修・感染症、食中毒予防研修・医療とターミナル研修・認知症研修 ZOOMで研修参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面会は、短時間、少人数での面会を事務所前喫茶スペースで再開しました。感染症の状況に応じ面会を中止するなどの対応をしました。</li> <li>施設内感染予防対策の徹底（検温、マスク、消毒、アクリル板設置、換気は随時（朝夕2回は定時放送で徹底）。</li> <li>運営推進会議：特養6回・通所2回実施しました。</li> </ul>
	3.要望等解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>要望件数2件。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外出の要望が2件ありました。感染症の状況により対応しました。（自宅に短時間での外出を許可しました。感染予防委員会で協議し許可を行う。）</li> </ul>
	4.地域貢献等の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月の山神社祭りに参加・市場区夏祭り雨天中止。</li> <li>秋祭り（敬老祝賀会）：施設のみで従来型、ユニット、DSで実施。</li> <li>餅つき：施設のみで従来型、ユニット、DSで実施。</li> <li>クリスマス喫茶の開催：施設のみで従来型、ユニット、DSで実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節分実施：施設のみ従来型、ユニット、DSで実施。</li> <li>喫茶：施設のみ従来型、ユニット、DSで実施。</li> </ul>
	5.防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間防災訓練計画を基に夜間想定・消火訓練各2回、夜間通報訓練1回、日中・風水害想定避難訓練を実施。</li> </ul>	
	6.環境美化 保健衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防対策として、電解次亜水生成器にて次亜塩素酸ナトリウム生成で清掃、アルコール手指消毒等徹底する。</li> <li>冬期の加湿器の設置、衛生マットや換気で湿度の保持を図る。</li> <li>感染予防対策の強化として（利用者、職員の2回検温、マスク着用、面会室のアクリル板設置等）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防対策備品の備蓄（マスク、ガウン、手袋等）</li> <li>施設周辺の庭木剪定、伐採、環境美化に努める</li> <li>年2回調整会議前に施設巡回を実施し記録。可能な範囲で修繕等改善を進める。</li> </ul>
	7.在宅支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期入所介護：利用率は低い。利用度の高い方が施設入所となるケースが多かった。4月から3ヶ月ほど新規の利用者の受け入れを止めていた。（人員不足の為。）</li> <li>各居宅介護事業所との連携で積極的な利用者支援を実施していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居宅：関係機関と連携し、在宅での緊急時や処遇困難なケースも迅速に対応できた。担当者会議等に参加し地域の情報の収集と共有に努めた。</li> <li>デイサービス：利用や特養入所などで利用者は減少した。年度後半になりデイ利用日を増やしたいと言う要望が多くなり稼働率が上昇してきている。</li> </ul>
	8.人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人雇用を行う（8名の外国人を雇用）</li> <li>外部講師を招き8ヶ月間研修を行う。</li> <li>定期面接：管理者面接2回全職員対象に実施した。必要に応じ随時面接を行った。</li> </ul>	
	9.人権活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権研修を行う。</li> </ul>	
	10.施設設備、備品等更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来型施設：花エリア前廊下の床修繕実施完了（高島市）令和6年2月完了</li> <li>ユニット型施設：カスタックの交換実施完了（高島市）令和6年3月完了</li> </ul>	
利用者サービス	1.利用者自立支援 ケアプランの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設年間ケアカンファレンス実施。（定期、要介護認定更新時・個々の状態変化時）。</li> <li>利用者自身が今できていることを長く維持できるよう意識したケアプランの作成。</li> <li>11名の方の看取りと振り返りカンファレンスの実施。</li> </ul>	
	2.健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月利用者定期健康診断を実施。</li> <li>インフルエンザ予防接種実施（利用者・職員）</li> <li>月1回定期診察。歯科検診（医師）。</li> <li>ガウンテクニク研修（介護全職員対象）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防対策に力を入れる。午前と午後と2回検温実施（利用者） 出退勤時検温実施（職員）。</li> <li>職員健康診断実施。夜勤職員健康診断実施。</li> <li>午前、午後と2回ラジオ体操を行なう。</li> </ul>
	3.「食」の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>喫茶の再開（概ね月1回）</li> <li>行事食の提供（月1回）</li> <li>行事の時に模擬店を出店（たこ焼き、ケーキバイキング等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食器棚や器具棚の整理整頓等衛生美化に努めた。</li> </ul>
	4.主な行事実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋祭り（敬老祝賀会）、お餅つき：地域の方の参加は中止。</li> <li>クリスマス喫茶：やまゆりホールにて開催（特養、短期、DS参加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DS：お花見、クリスマス会を実施。</li> <li>施設：クリスマス会、節分行事など季節を感じていただけるように実施。</li> </ul>
	5.ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>日赤奉仕団：施設外周の草取りに2回訪問。</li> <li>6月伊勢太神楽の舞。玄関にて舞を觀賞する。</li> <li>ご近所山下様ご夫婦により、草取り花壇定植、水やり。</li> </ul>	

・施設：小規模特養-稼働率 92.9%、地域密着特養-稼働率 89.7%（年間延べ小規模 371 日入院、地域密着 336 日入院あり前年度より+261 日増）平均稼働率 91.3%前年（95.4%）より 4.1P 減。目標を 96%稼働としており目標値より-4.7P 下回る結果となった。

要因として退所者 24 名（前年度 19 名）と過去になく多かった事と入院日数も 707 日間と前年度と比較しても 336 日間増えた事が挙げられる。

・短期入所：小規模稼働率平均 49.6%。地域密着型稼働平均 34.9% 平均稼働率 42.2% 前年比（72.8%）30.6P 減となった。要因として指定管理者の変更に伴い、職員配置の関係もあり当初朽木居宅のみで一定期間の受け入れを調整した。また、退所が多い関係で定期利用のショート利用者が入所となり、冬季期間は老健へ入所のため予定のキャンセルになるなど様々な要因が重なり稼働率低下の要因と思われる。

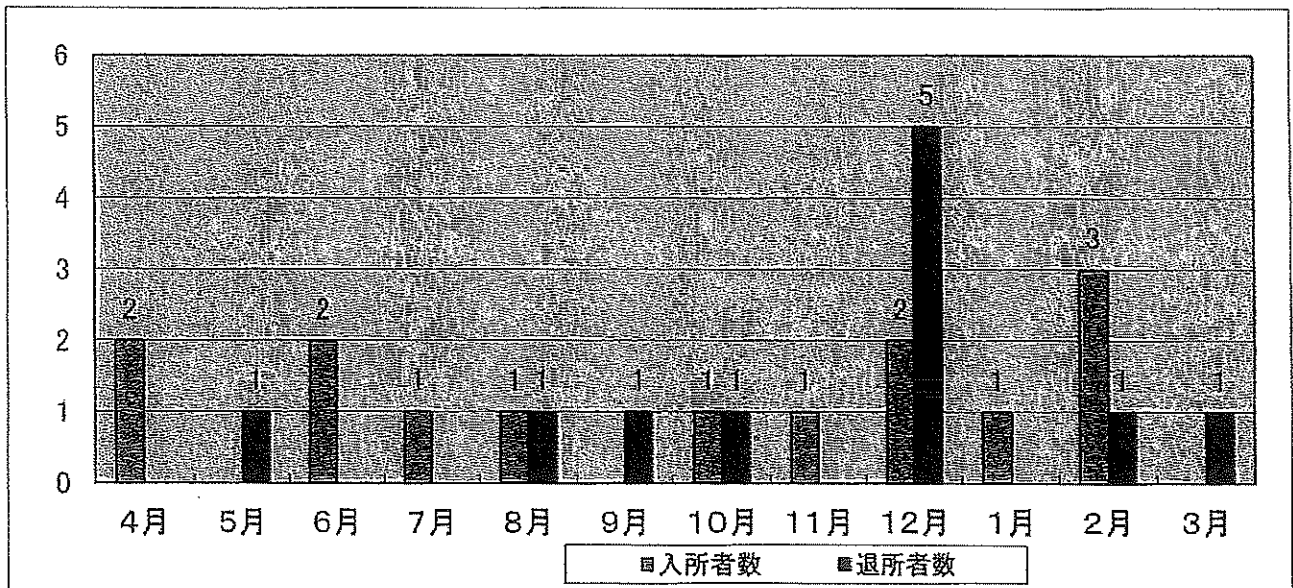


令和5年度 月別年間入所者・退所者状況(小規模)

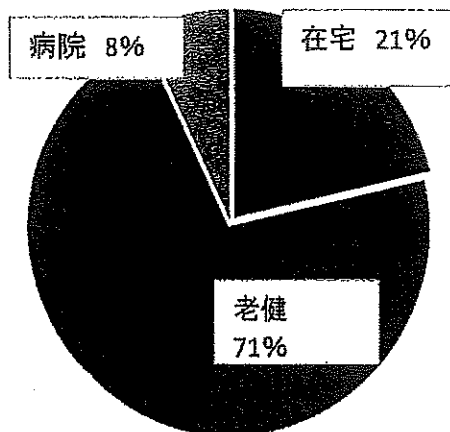
	入所者数	退所者数
4月	2	
5月		1
6月	2	
7月	1	
8月	1	1
9月		1
10月	1	1
11月	1	
12月	2	5
1月	1	
2月	3	1
3月		1
合計	14	11

内訳	入所前
在宅	3
老健	10
病院	1
GH	
他施設	0
	14

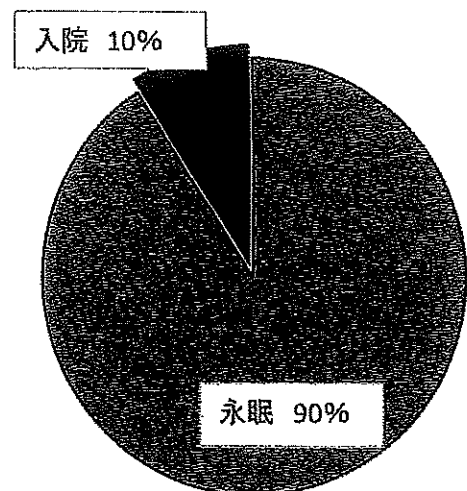
内訳	退所後
永眠	10
入院	1
在宅	0
他施設	0
	11



入所前



退所後



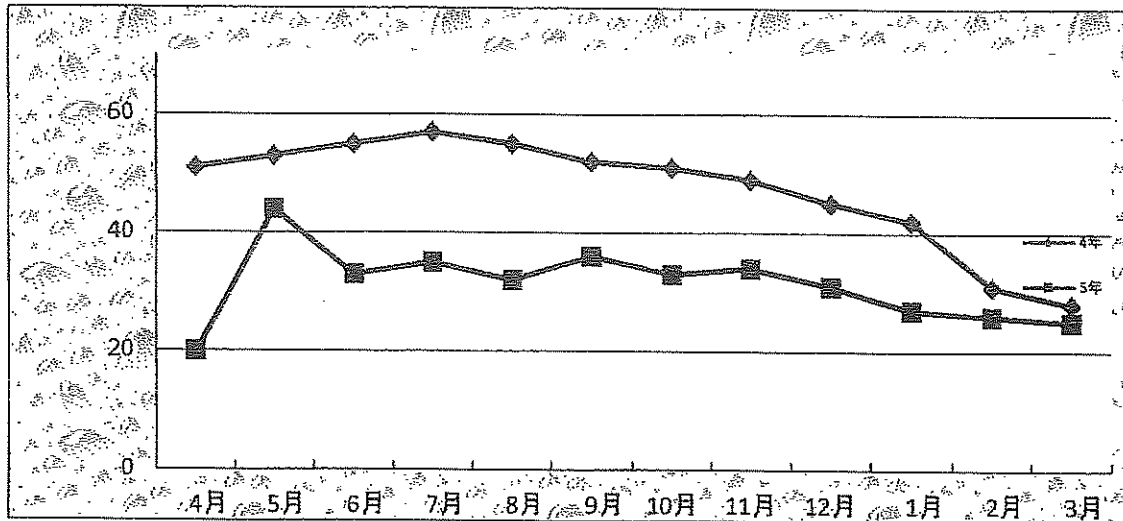
# 令和5年度 朽木居宅介護支援事業報告

R4年度・R5年度比較表

要介護度別月別プラン作成人数

要介護度	要支援1・2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	4年	5年	4年	5年	4年	5年	4年	5年	4年	5年	4年	5年	4年	5年
4月	12	0	24	9	8	3	6	5	1	2	0	1	51	20
5月	11	0	26	25	8	8	7	5	1	4	0	2	53	44
6月	12	0	25	18	8	6	9	4	1	5	0	0	55	33
7月	11	0	27	19	8	8	8	4	3	4	0	0	57	35
8月	11	0	25	19	8	8	8	1	3	4	0	0	55	32
9月	11	0	24	21	8	9	7	3	2	2	0	1	52	36
10月	11	0	23	18	8	9	6	3	3	2	0	1	51	33
11月	11	0	23	17	6	8	6	4	3	4	0	1	49	34
12月	10	0	21	17	5	8	6	3	3	3	0	0	45	31
1月	10	0	17	16	5	7	7	1	3	3	0	0	42	27
2月	5	0	14	16	4	7	6	1	2	2	0	0	31	26
3月	0	0	14	16	6	6	6	1	2	2	0	0	28	25
合計	115	0	263	211	82	87	82	35	27	37	0	6	569	376

ひと月あたり平均 令和4年度 47.4 令和5年度 31.3



## 月別福祉用具レンタル及び購入件数・住宅改修件 サービス担当者会議件数 その他の相談業務件数

	福祉用具レンタル		福祉用具購入		住宅改修	
	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度
4月	28	15	1	0	1	1
5月	30	23	1	0	1	0
6月	32	20	1	0	0	1
7月	32	19	0	0	0	0
8月	31	16	0	1	0	2
9月	29	19	0	0	0	1
10月	28	17	0	0	1	1
11月	27	21	0	0	0	0
12月	28	18	1	0	0	0
1月	27	16	0	0	0	0
2月	21	15	1	0	0	0
3月	18	15	1	1	0	0
合計	331	214	6	2	3	6

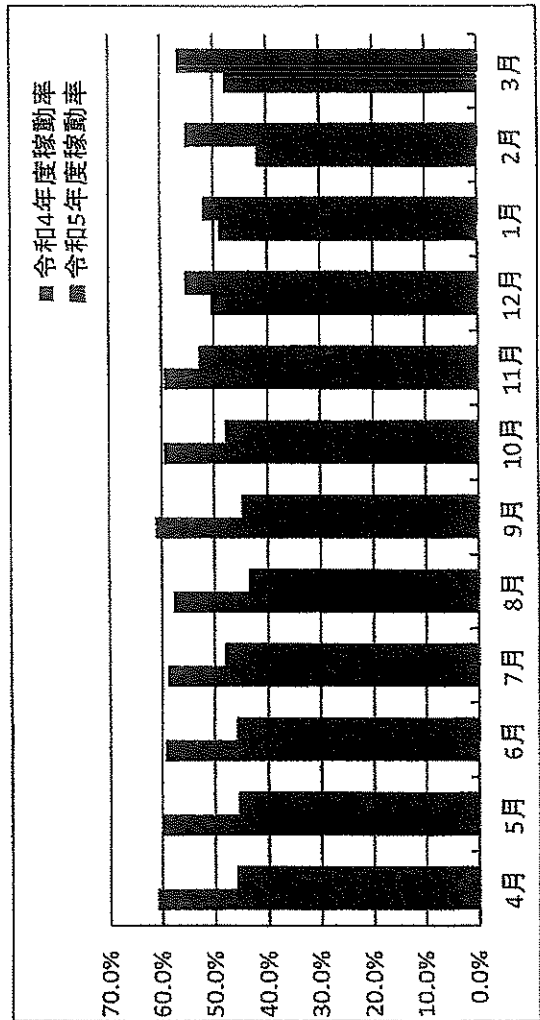
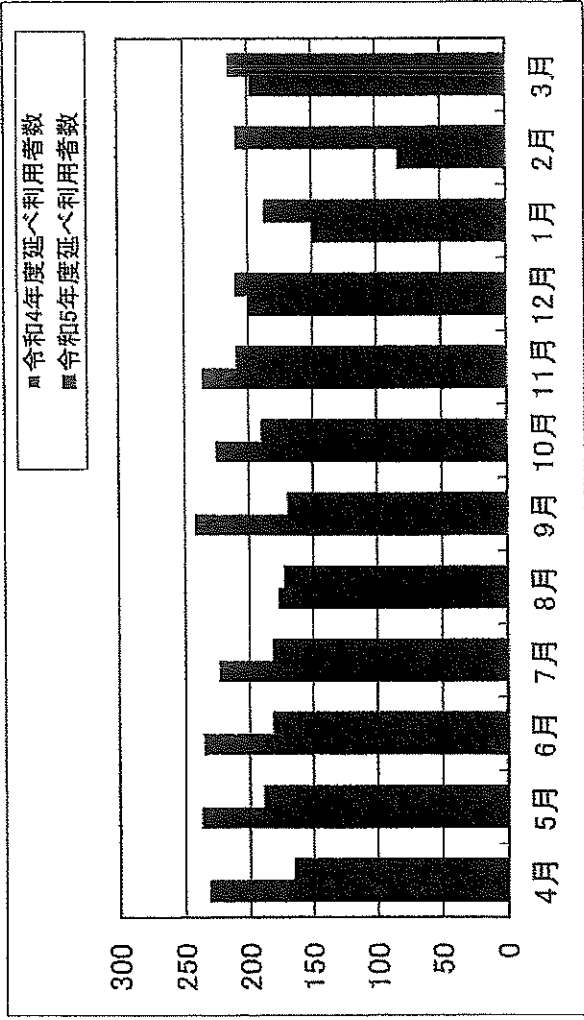
(件)

	担当者会議		その他相談業務	
	4年度	5年度	4年度	5年度
4月	7	24	21	58
5月	8	12	27	34
6月	4	5	19	26
7月	6	6	30	48
8月	5	7	34	35
9月	4	10	33	23
10月	4	7	23	25
11月	2	5	31	15
12月	5	4	29	34
1月	6	3	25	31
2月	1	6	33	13
3月	10	4	31	16
合計	62	93	336	358

(件)

運営法人の変更に伴う事業引継ぎが行われる際に、次期体制が一人ケアマネでのスタートとなる為、要支援1.2の方については地域支援課でマネジメントをお願いする形での支援となった為の件数の大幅な減少となった。新規の相談は23件と老健等からの復帰が8件、永眠や施設入所などでの終了者は20件、他に4名の方が居宅の変更で終了となった。7月からは新たに主任ケアマネを迎えて二人体制で支援に当たり世代交代を視野に入れた業務に当たった。今年度は特にヘルパーサービスの導入が困難で希望に答える事ができない事も出てきており、保険者に相談したり他のサービスを代替として提案し提供も行った。

# 令和5年度 朽木デイサービス事業報告



月	令和4年度			令和5年度		
	延べ利用者数	稼働日数	稼働率	延べ利用者数	稼働日数	稼働率
4月	230	21	60.8%	165	20	45.8%
5月	237	22	59.8%	188	23	45.4%
6月	235	22	59.3%	181	22	45.7%
7月	223	21	59.0%	181	21	47.9%
8月	177	17	57.8%	172	22	43.4%
9月	242	22	61.1%	169	21	44.7%
10月	225	21	59.5%	189	22	47.7%
11月	235	22	59.3%	208	22	52.5%
12月	200	22	50.5%	209	21	55.3%
1月	150	17	49.0%	186	20	51.7%
2月	83	11	41.9%	208	21	55.0%
3月	198	23	47.8%	214	21	57%
合計	2435	241	55.5%	2270	256	49.3%

\*利用定員18名

## ●利用状況について

令和5年度開始当初より施設入所となられる方が相次いでおり、疾病や機能低下により在宅での生活が困難となったがホームヘルプなど在宅介護サービスの供給が十分でなく長期の入所、者健入所を余儀なくされる方も多く、前年度末から続く稼働率の低下が改善しないままでのスタートとなった。新規利用者の獲得も積極的に実施していたものの前述の理由により継続利用に繋がらないまま上半期が過ぎることとなった。年度後半に差し掛かるとこれまでもデイサービスが意識し努めてきた「明るい雰囲気作り」が実を結びつつあるのかデイ利用日を増やしたいという要望が多く利用者から聞かれるようになり、結果徐々に稼働率が上昇してきている。

## ●利用者処遇の向上について

年度後半の施設行事としては恒例であった餅つき大会を開催、クリスマスには華やかなスイーツを提供する喫茶を催したり、節分には鬼と記念撮影など初権会としてのアプローチャで利用者に参加感を醸成して頂くことができた。デイサービスの日々の活動では短期入所や入所の利用者仲間わず、多くの方が交流できる場の提供と「明るい雰囲気作り」を今後も意識して新規利用者の獲得、稼働率向上を図ってまいります。

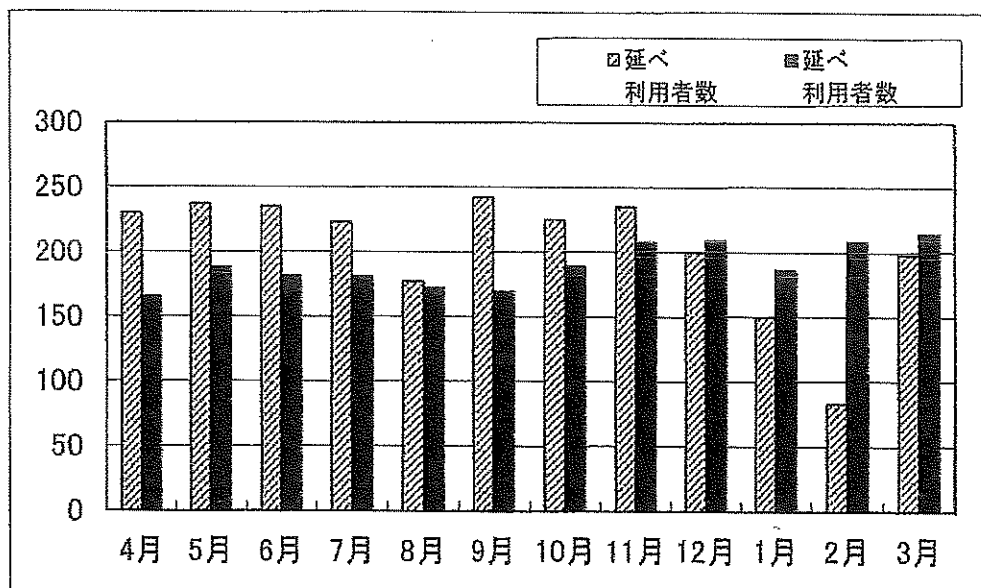
# 令和5年度 朽木デイサービス事業報告

R5.12月時点

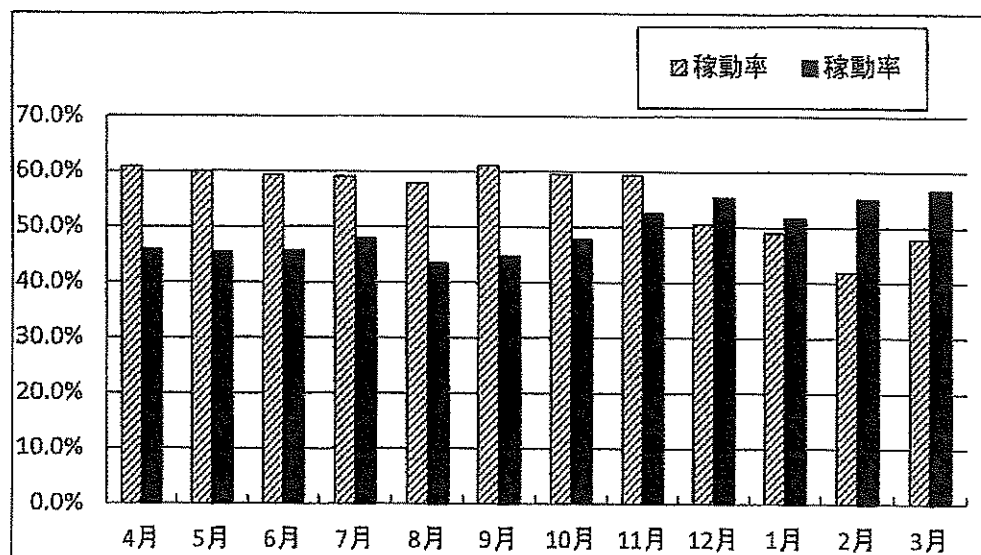
月	令和4年度				令和5年度			
	延べ利用者数	稼働日数	1日平均利用者数	稼働率	延べ利用者数	稼働日数	1日平均利用者数	稼働率
4月	230	21	10.95	60.8%	165	20	8.25	45.8%
5月	237	22	10.77	59.8%	188	23	8.17	45.4%
6月	235	22	10.68	59.3%	181	22	8.23	45.7%
7月	223	21	10.62	59.0%	181	21	8.62	47.9%
8月	177	17	10.41	57.8%	172	22	7.82	43.4%
9月	242	22	11.00	61.1%	169	21	8.05	44.7%
10月	225	21	10.71	59.5%	189	22	8.59	47.7%
11月	235	22	10.68	59.3%	208	22	9.45	52.5%
12月	200	22	9.09	50.5%	209	21	9.95	55.3%
1月	150	17	8.82	49.0%	186	20	9.30	51.7%
2月	83	11	7.55	41.9%	208	21	9.90	55.0%
3月	198	23	8.61	47.8%	214	21	10.19	56.6%
合計	2,435	241	10.10	55.5%	2,270	235	9.66	49.3%

\* 利用定員18名

月別 延べ利用者数



月別 稼働率





令和5年度 やまゆりの里 消防訓練実施報告(消防計画に基づく防災訓練)

	計 画	結 果	消防署への届出	備 考
5月	夜間想定避難訓練 (5/19)	17:20~17:50まで 職員13名参加	無し	
	同時刻対の火災発生時の初期対応(火元の捜索、初期消火、消防への連絡)の流れの確認と実践。			
6月	火災初期対応訓練 (6/27)	13:30~15:00まで 職員7名参加	無し	
	外国人職員、新人職員を主に対象とし、施設の図面を用い施設内の防火システムの説明と確認。火災発生時の初期対応(火元捜索、初期消火)の説明と実践。			
8月	水災害避難準備 (8/15)	8:30~17:30 利用者 当日出勤職員 計 73名参加	無し	台風7号接近に伴い実施
	水災害避難確保計画に基づき、各職員の役割分担、参集条件の確認、実際の避難行動に備えた人員配置、避難時の配車の設定。非常時持ち出し品の準備を実施。実際には警戒レベルは3に達せず施設外への避難までは至らなかった。			
11月	日勤帯想定避難訓練 (11/27)	13:30~15:00まで 職員18名参加	有り	
	日勤体での火災発生を想定し、報知器の発報から出火場所捜索、初期消火までの初期対応について確認し、初期消火、非常放送、通報訓練を実施した。外国人職員も参加、日本人職員とペアで行動して頂くことで火災発生時の動きを確認して頂いた。			
11月	初期消火訓練 (11/27)	15:00~15:30まで 職員11名参加	有り	
	主に外国人職員、消火器を取り扱ったことのない職員を対象として、訓練用消火器を用いた、取り扱い訓練を実施した。			

消火訓練 4回

避難訓練(夜間1・日中1) 2回

風水害想定避難訓練 1回

防災委員会会議 令和5年5月より毎月開催

## 令和5年度 研修実績

	月日	研修会名	参加職種	参加人数	研修内容
1	4月5日	外国人職員研修	CW	4	接客マナー・身体清拭の介助・仕事のルール・報告・連絡・相談
2	5月8日	外国人職員研修	CW	4	基本の声かけ・移乗介助・事故防止・ボディメカニクス
3	5月19日	コロナ感染症の予防及び蔓延防止・ 諾感染症食中毒予防	N・CW・管理栄養士	9	ZOOM・人生100年時代の栄養管理のポイント
4	6月25日	技能実習指導員	CW	1	外国人職員技能指導
5	6月25日	虐待防止・身体拘束の適正化	CW	19	ZOOM
6	7月5日	外国人職員研修	CW	6	食事介助・排泄介助・挨拶マナー・仕事のルール・報告・連絡・相談
7	8月23日	外国人職員研修	CW	4	衣類着脱の介助・認知症ケア・高齢者の虐待防止・身体拘束禁止
8	9月5日	職業倫理	CW・N	14	ZOOM
9	9月19日	褥瘡予防	施設長・N・管理栄養士・CW・CM	12	滋賀県看護協会 出張研修 皮膚・排泄ケア認定看護師 来所
10	9月22日	ポジショニング・褥瘡	N・CW・CM	8	ZOOM
11	10/10~11	外国人職員研修	CW	5	身体清拭の介助・挨拶マナー・高齢者虐待防止・身体拘束禁止・基本の声かけ
12	#####	外国人職員研修	CW	1	仕事のルール・挨拶マナー・基本の声かけ・ボディメカニクス・移乗の介助
13	11/5~6	外国人職員研修	CW	5	食事介助・排泄介助・衣類の着脱
14	11月16日	高齢者施設における感染対策	施設長・N・管理栄養士・CW・CM	15	滋賀県健康医療福祉部 健康危機管理課より3名来所
15	12/14~15	外国人職員研修	CW	5	認知症ケア・事故報告・ヒヤリハット・身体清潔の介助
16	1月12日	終末期・看取り・医療とターミナルケア	N・CW・CM	11	基本的な考え方・具体的な方法
17	1月19日	滋賀県老人福祉協議会 施設長交流会	施設長	1	意見交換会・県医療福祉部交流会
18	2月8日	口腔ケアのためのミニ講演会	施設長・CM	2	DVDによる研修・質疑応答
19	2月29日	介護におけるリスクマネジメント研修	N・CW・CM	8	ZOOM タッピング・座位姿勢等
20	3月5日	人権を身近に感じよう ハラスメントと人権	施設長・CW・CM・N	10	ZOOM